



ロケーション インテリジェンス

Spectrum™ Spatial Analyst

バージョン 2019.1

Spectrum Spatial Analyst ユーザ ガイド



目次

1 - はじめに

概要	5
サポートされるブラウザおよびオペレーティングシステム	8
サポートされている言語	8

2 - サインイン

3 - 基本機能の説明

ヘルプの参照	13
URL 起動パラメータ	13
検索	14
現在の位置	16
マップ中心点の変更	16
マップ内の移動	17
マップ情報コールアウト	19
マッププロジェクトの変更	20
ベース マップの切り替え	20
言語の変更	21
マップの凡例の操作	22
マッププロジェクトの保存	25
名前を付けてマッププロジェクトを保存	26
著作権情報	27

4 - テンプレート デザイン

新しいテンプレートの作成	29
テンプレートの編集	33

5 - プロジェクト ホーム

新しいマッププロジェクトの作成	37
プロジェクト設定	42

6 - 新規レコードの追加と編集

新規レコードの追加	48
レコードの編集	50
レコードの削除	51

7 - クエリの作成

クエリの作成	53
クエリのスタイル設定	55
クエリ結果ビュー	56

8 - レイヤの追加

Spectrum Spatial レイヤの追加	59
ベクタ レイヤの追加	60
ベクタ レイヤの編集	63

9 - 主題図の操作

個別値主題図の作成	68
レンジ主題図の作成	70
サイズ可変シンボル主題図の作成	73
主題図の削除	74

10 - 注釈の操作

ポイントの描画	76
ラインの描画	76
円を描画	77
ポリゴンの描画	78
長方形の描画	79
同心リングの描画	80
楕円の描画	81
セクターの描画	82
走行時間ポリゴンの描画	82
走行距離ポリゴンの描画	83
テキスト注釈	84
注釈のまたは分割	85
注釈のインポート	86
注釈の編集	87
注釈のプロパティ	89
単一または複数の注釈内のデータの集計	98
注釈のスタイル設定	101

11 - 距離および面積の測定

距離の測定	107
面積の測定	107

12 - フィーチャの複数選択

13 - マップの印刷

印刷プレビュー	112
---------	-----

1 - はじめに

はじめに、以下のヘルプトピックを参照してください。

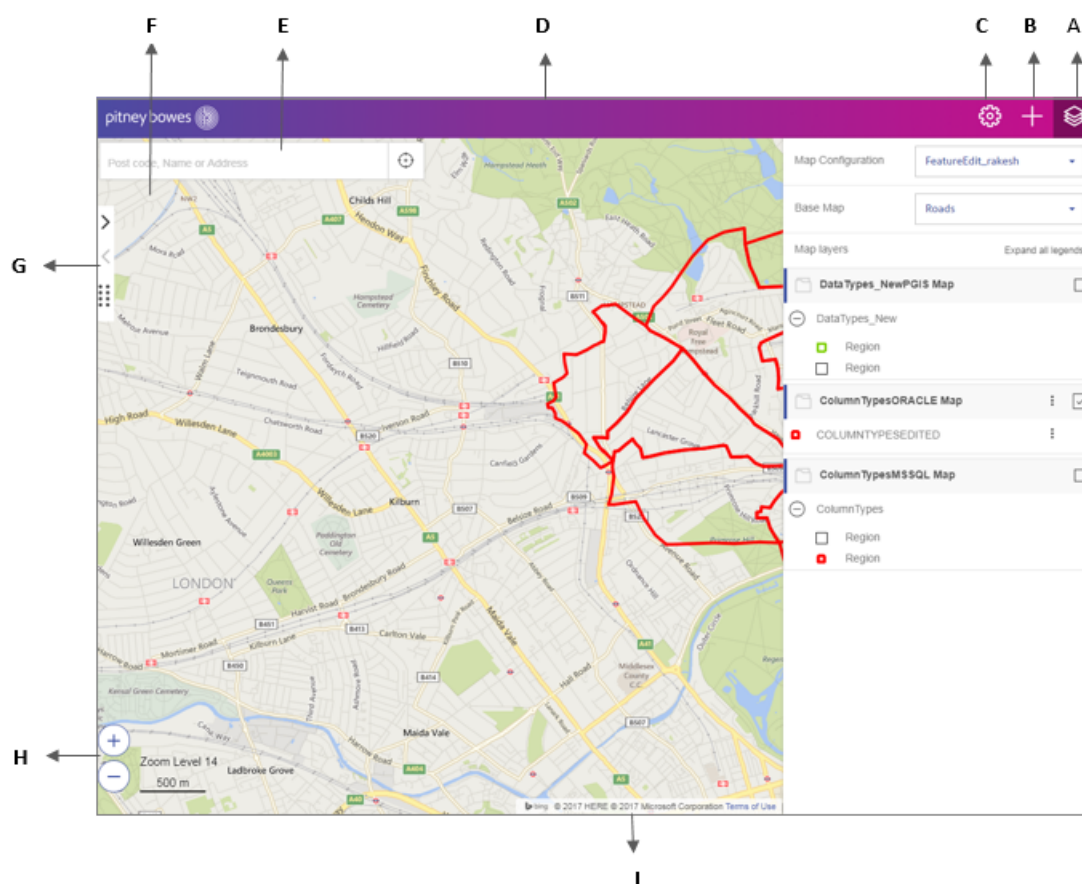
In this section

概要	5
サポートされるブラウザおよびオペレーティング システム	8
サポートされている言語	8

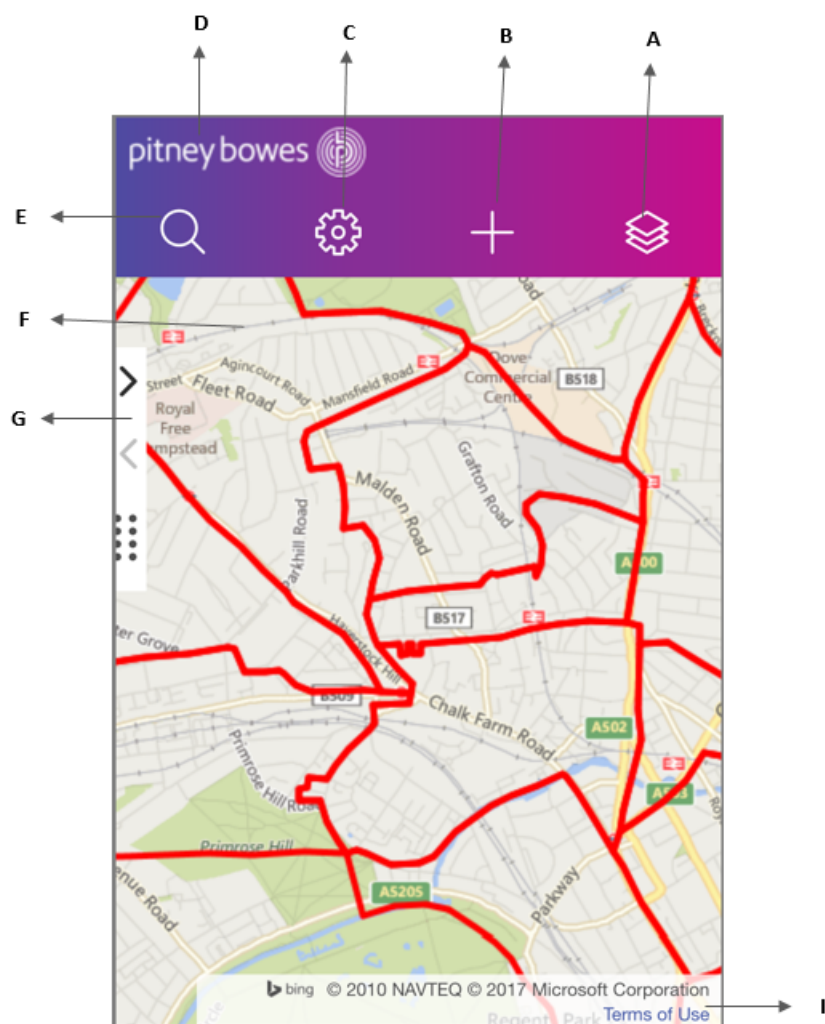
概要

Spectrum Spatial Analyst は、Spectrum Spatial に含まれている Web マッピング クライアントであり、Pitney Bowes Inc. が提供しているインタラクティブなマッピング サービスです。マッピング および地理的情報へのアクセスや、住所および郵便番号検索を行うことができます。次の図に、Spectrum Spatial Analyst アプリケーションのデスクトップビューとモバイルビューを示します。

A.Spectrum Spatial Analyst アプリケーション - デスクトップビュー



B.Spectrum Spatial Analyst アプリケーション - モバイルビュー



項目 名前

説明

A	[マップの凡例] パネル	[マップの凡例] パネルでは、マップで利用可能なマップオーバーレイへのキーを表示できます。
B	[追加] パネル	[追加] パネルでは、クエリの実行、主題図レイヤの追加、注釈の作成、測定ツールの提供を行うことができます。
C	[オプション] パネル	[オプション] パネルでは、マップの印刷、現在の座標の表示、ヘルプへのアクセス、言語の変更、アプリケーションへのサインイン、テンプレートデザイナーの起動、プロジェクトのホームページでの新しいマッププロジェクトの作成を行うことができます。

項目	名前	説明
D	バナー (オプション)	組織のバナーを表示します。
E	住所の検索	検索ボックスを使用して、住所、場所の名前、または郵便番号を検索できます。
F	マップ エリア	現在のマップで表示中のエリアです。
G	左側のパネルの展開/折りたたみ	このボタンを使用して、左側のパネルを展開したり折りたたんだりできます。
H	拡大と縮小 (デスクトップのみ)	左下隅の拡大ボタンをクリックすると、マップを拡大できます。 左下隅の縮小ボタンをクリックすると、マップを縮小できます。
I	著作権情報	著作権情報はマップの右下隅に表示されます。

Spectrum Spatial Analyst アプリケーションでは次のことができます。

- 現在のマップとデータを参照する
- 空間マップや道路マップなどのさまざまな背景マップを切り替える
- マップをズーム インおよびズーム アウトする
- 住所および郵便番号を検索する
- マップをクリックしてマップ上に存在するものの情報を取得する
- 住所の近くにあるサービスや施設を検索する
- 現在のマップ内や描画したシェイプ内のデータを検索する
- さまざまな基準を使用してデータを検索する
- マップ上に注釈を描写する
- マップを PDF ファイルへ印刷する
- 投影法が同じ場合、マップ プロジェクトを切り替えたときに X、Y、表示、ズームを保持する

サポートされるブラウザおよびオペレーティングシステム

Spectrum Spatial Analyst では、次のブラウザとオペレーティングシステムがサポートされています。

デスクトップ:

- Microsoft IE 11 および Edge
- Mozilla Firefox 68.0.2
- Google Chrome 76.0
- Mac 上の Safari 11.1.2

デバイス:

- iOS12.0 上の Safari (iPad)
- iOS12.0 上の Safari (iPhone)
- Android 6.0 上の Chrome
- Windows 10 上の Microsoft Edge

サポートされている言語

Spectrum Spatial Analyst では、次の言語がサポートされています。

言語	コード
ウェールズ語	cy
デンマーク語	da
ドイツ語	de
英語 (デフォルト)	ja

言語	コード
英語 (オーストラリア)	en-au
英語 (イギリス)	en-gb
フィンランド語	fi
フランス語	fr
オランダ語	nl
ポルトガル語	pt
スペイン語	es
イタリア語	it
トルコ語	tr
日本語	ja

注：言語パラメータは大文字、小文字を区別します。たとえば "?lang=en-gb" と記述します。

関連概念

[言語の変更](#) (21ページ)


2 - サインイン

Spectrum Spatial Analyst では、一部の許可された設定においてゲストユーザとして作業することができます。ただし、自分の認証情報でサインインすれば、自分に許可されているすべてのリソース (設定) にアクセスできます。Spectrum Spatial Analyst では、役割ベースでアクセスが管理され、各ユーザは異なる役割でサインインすることができます。

注：ログイン情報がない場合は管理者に問い合わせ、ログイン認証情報を取得してください。

サインイン

アカウントにサインインするには、次の手順に従います。


1. Spectrum Spatial Analyst アプリケーションを開きます。
2. マップの右上隅の【オプション】 アイコンをクリックまたはタッチして【オプション】パネルを開きます。
3. 【サインイン】リンクをクリックまたはタッチします。【サインイン】ページが表示されます。
4. アカウント情報を入力します。

注：ユーザ名とパスワードでは大文字と小文字が区別されません。

5. 【サインイン】ボタンをクリックまたはタッチします。認証情報に基づいて、Spectrum Spatial Analyst アプリケーションが表示されます。

サインアウト

アカウントからサインアウトするには、次の手順に従います。

1. 右側のメニュー  をクリックまたはタッチして【オプション】パネルを開きます。
2. 【サインアウト】リンクをクリックまたはタッチします。これで Spectrum Spatial Analyst からログアウトしました。

注：ログイン情報がない場合は管理者に問い合わせ、ログイン認証情報を取得してください。

このセクションの構成

3 - 基本機能の説明



このセクションの構成

ヘルプの参照	13
URL 起動パラメータ	13
検索	14
現在の位置	16
マップ中心点の変更	16
マップ内の移動	17
マップ情報コールアウト	19
マップ プロジェクトの変更	20
ベース マップの切り替え	20
言語の変更	21
マップの凡例の操作	22
マップ プロジェクトの保存	25
名前を付けてマップ プロジェクトを保存	26
著作権情報	27


ヘルプの参照

Spectrum Spatial Analyst では、Spectrum Spatial Analyst アプリケーションのすべての機能に対して、オンライン ヘルプが用意されています。

オンライン ヘルプにアクセスするには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[オプション]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[オプション]** パネルを開きます。
2. **[ヘルプ]**  アイコンをクリックすると、オンライン ヘルプが表示されます。

注：オンラインヘルプの「ようこそ」ページから PDF をダウンロードすることもできます。

注：Spectrum Spatial Analyst の完全なドキュメントには、**[マッププロジェクト]>[プロジェクト ホーム]>**  ヘルプ オプションからもアクセスできます。

URL 起動パラメータ

Spectrum Spatial Analyst では、使用可能なパラメータを使うことにより、URL を起動して特定の 방법으로 Spectrum Spatial Analyst インターフェイスを表示することができます。

マッププロジェクト名、位置住所データセット、言語の指定のほかに、パラメータを使用して以下を行うことができます。

- 特定のマップ フィーチャをコールアウト付きで表示する
- 特定の場所の位置をマーカーを使って強調表示する
- ある場所に最も近いフィーチャの結果を表示する
- 表示に切り替えるマップ オーバーレイを定義する
- アクティブなベース マップを指定する
- 同心リングを描画する

使用可能なパラメータの詳細については、『*Spectrum Spatial ガイド*』の「*URL 起動パラメータ*」の章を参照してください。



検索

検索ボックスを使用して、住所、場所の名前、または郵便番号を検索できます。検索には、1つの語句や数字、またはスペースで区切った複数の語句や数字の組み合わせを含めることができます。例えば、次のような項目を指定できます。

- 道路名
- 所有地番号と名前
- 所有地番号と郵便番号
- 郵便番号
- 郵便番号の一部
- 郵便番号と道路名の組み合わせ (全部または一部)
- 場所の名前 (例: 学校)

郵便番号、場所の名前、または住所の検索


住所、場所の名前、または郵便番号で検索するには、次の手順に従います。

1. 画面の左上にある検索ボックスを見つけます。
2. 検索ボックスをクリックまたはタッチして、住所または場所の名前を入力します。検索ボックスに住所の一部 (郵便番号、ストリート名など) を入力することもできます。
3. キーボードの **Return** キーをクリックまたはタップします。
一致する住所の一覧が左側のパネルに表示されます。
4. [検索結果] で、目的の住所をクリックまたはタップします。住所を含むコールアウトがマップにマップ マーカー付きで示されます。詳細については、「[マップ情報コールアウト \(19ページ\)](#)」を参照してください。
5. 検索結果に戻るには、[結果に戻る]  ボタンをクリックまたはタップします。
6. 検索ボックスをクリアして検索結果を閉じるには、 をクリックまたはタップします。


最寄検索

選択した住所の近くの場所を検索するには、次の手順に従います。

1. 検索ボックスから住所を検索します。





住所がマップ上に小さなコールアウトで示され、**[最寄検索]**  ボタンが上部の左側のパネルに表示されます。

注：[最寄検索] ボタンは、最寄検索を行う権限のあるユーザーにのみ表示されます。

注：モバイルデバイスでは、マップ上に小さなコールアウトで示された住所とともに、付近のサービスを検索するための **[最寄検索]**  ボタンが表示されます。

2. **[最寄検索]** ボタンをクリックまたはタップすると、**付近の場所**の一覧が左側のパネルに表示されます。
例えば、病院、学校、コーヒーショップなどのカテゴリが左側のパネルに一覧表示されます。
3. 任意の**カテゴリ (検索結果)** をクリックまたはタップすると、サブカテゴリが表示されます。
例えば、MAX 病院、市立病院などが表示されます。
4. **サブカテゴリの結果** をクリックまたはタップすると、マップの正確な場所にマーカーが表示されます。

注：検索した最寄りの場所 (サブカテゴリ) の一覧にカーソルを重ねると、マップ上のマーカーが強調表示されます。

5. マーカーをクリックまたはタップすると、詳細情報が左側のパネルに表示されます。
6. **[オーバーフロー]**  ボタンをクリックして、FMN 結果を .csv ファイルとしてダウンロードします。
7. 最寄検索情報を含むマップを PDF に出力して印刷できます。詳細については、「[マップの印刷](#)」セクションを参照してください。
8. 前の検索結果に戻るには、 ボタンをクリックまたはタップします。
9. 最近検索した住所を閉じるには、 ボタンをクリックまたはタップします。
10. すべての検索結果を閉じるには、 をクリックまたはタップします。

最近検索した場所

[検索] テキスト ボックスで、新しいテキストを入力するためにカーソルを置くと、最近検索した 5 つの場所が検索パネルに表示されます。

クイック検索

クイック検索は、Spatial Managerでの設定に基づき検索パネルの下に表示される、事前に定義されたクエリのリストです。また、これを使用することで、クエリ フィルタに値を入力する手間を省いてマップ レイヤ内をすばやく検索できます。

クイック検索を実行するには、次の手順に従います。

1. 画面の左上にある検索ボックスを見つけます。
2. 検索ボックスにカーソルを置くと、クイック検索で使用できるクエリのリストが表示されます。
3. クエリをクリックして結果を表示します。


クエリ結果に対する操作の詳細については、「[クエリ結果ビュー](#)」を参照してください。

現在の位置

現在の位置に移動できるようになります。現在地は、ちょうど今いる場所を確認するための機能です。

現在地

現在の位置に移動するには、次の手順に従います。

1. 画面の左上にある検索ボックスを見つけます。
2. 検索ボックスにある  アイコンをクリックすると、現在の位置に移動します。

注：一部またはすべてのサポート ブラウザでは、保護されたコンテキスト (HTTPS) でしかこの機能を利用できません。

マップ中心点の変更

X 値および Y 値を指定してマップを表示できます。マップの現在の投影法に加えて、経度と緯度で値を入力できます。

デフォルトのマップ中心点

マップをデフォルトのマップ中心点に配置するには、次の手順に従います。

1. 画面の左上にある検索ボックスを見つけます。
2. 検索ボックスをクリックまたはタッチします。
3. **[デフォルトのマップ中心点]** アイコンをクリックするとデフォルトのマップ中心点に戻ります。

X-Y および 緯度-経度値の変更

x-y 値を変更するには、次の手順に従います。

1. 画面の左上にある検索ボックスを見つけます。
2. 検索ボックスをクリックまたはタッチして **[座標入力]** アイコンをクリックします。
3. **[XY]** または **[緯度/経度]** ラジオ ボタンを選択して、x、y、または緯度/経度の値を入力します。指定した地点がマップの中央になります。

検索ボックスを使用した X-Y および 緯度-経度値の変更

検索ボックスから x-y 値を変更するには、次の手順に従います。

1. 検索ボックスをクリックまたはタッチします。
2. 検索ボックスに x:、y:、lon:、または lat: と入力します。検索ボックスは 2 つ表示されます。
3. ドロップダウン ボックスから、x/y と 緯度/経度 の入力を切り替えることができます。
4. テキスト ボックスに値を入力します。
5. **[Go]** ボタンをクリックまたはタッチします。指定した地点がマップの中央になります。

マップ内の移動

Spectrum Spatial Analyst のナビゲーションツールを使用して、マップを視覚的に調べることができます。

拡大と縮小

マップを拡大/縮小するにはさまざまな方法があります。

- デスクトップで左下隅の **+** ボタンを選択すると、マップを拡大できます。左下隅の **-** ボタンを選択すると、マップを縮小できます。
- 拡大するには、2本の指で同時に領域をクリックまたはタッチして、指を広げるように動かします。
- 縮小するには、2本の指で1回クリックまたはタッチするか、2本の指で領域にタッチして、指を狭めるように動かします。

よくある質問

縮小しただけなのに、凡例コントロールに次のエラーメッセージが表示されています

```
Layer not visible at this zoom level
```

Spectrum Spatial Analyst では、管理者がマップレイヤを表示するズームレベルを決定できます。これは「ズーム レイヤリング」と呼ばれます。マップレイヤが無効になった場合は、ズームイン(または場合により、ズームアウト)して、レイヤが表示されるようにする必要があります。通常、非常に詳細な情報を表示するレイヤは、ズームインした場合にのみ有効になります。

ズーム レイヤリングはどこに保存されますか

ズーム レイヤリングはレイヤ定義の一部として保存され、作成して Spectrum Spatial Analyst へアップロードした後は、ユーザが表示したり変更したりすることはできません。

無効になっているレイヤが PDF 印刷に反映されないのはなぜですか

これは想定どおりの動作です。無効になっているレイヤはマップ上や印刷PDF上に表示されません。いずれの場合もズームインすることでレイヤを表示できます。


マップ内の移動


マップ内を移動するには、指またはマウスでマップをドラッグします。

現在の座標の表示

現在の投影法によるマップの現在の座標を表示できます。

現在の座標を表示するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[オプション]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[オプション]** パネルを開きます。

2. [現在の座標]  アイコンをクリックすると、現在の座標が表示されます。以下を表示できます。
 - a. **X-Y** - マップの現在の x-y 座標を表示するには、**[X-Y]** ラジオ ボタンを選択します。
 - b. **緯度/経度** - マップの現在の緯度と経度を表示するには、**[緯度/経度]** ラジオ ボタンを選択します。

注：マップの座標を変更する方法については、「[マップ中心点の変更](#)」を参照してください。

マップ情報コールアウト

マップ情報コールアウトは、マップ上に表示されたフィーチャに関する情報を示します。これは左側のパネルに表示されます。

1. フィーチャに関する詳細情報を表示するには、マップ上のポイントをクリックまたはタッチします。

左側のパネルにコールアウトが表示され、その場所にあるすべてのフィーチャの属性情報が示されます。情報はフィーチャごとに異なりますが、次の情報を含めることができます。






- X および Y
- 経度と緯度
- 選択したポイントでフィーチャを含んでいるテーブルの総数
- フィーチャのタイトルと説明
- [近傍検索] ボタン

注：マップ情報コールアウト機能は、管理者が行った設定に基づいて使用可能になります。上記の情報がすべてコールアウトに表示されるとは限りません。

注：モバイル デバイスでは、XY および緯度/経度情報が示された小さなコールアウトが表示されます。

2. マップ情報コールアウトの詳細は左側のパネルに表示されます。
3. **[マップ上に表示]** ボタンをクリックすると、強調表示されたフィーチャがマップに表示されます。

注：このフィーチャの強調表示は、マップ上またはマップ情報コールアウト上で別のフィーチャを選択するとすぐに解除され、新しいフィーチャが強調表示されます。

4. この情報を注釈としてマップに追加するには、**[オーバーフロー]**  アイコン > **[注釈として追加]** をクリックまたはタッチします。
5. **[オーバーフロー]**  アイコンをクリックまたはタッチして、1つまたは複数のオプションを表示します。
 - a. **[リンクアウト]**  ボタンをクリックまたはタッチして、**Confirm** アプリケーションなどのサポートされているアプリケーションでフィーチャの結果を開きます。
 - b. **[リンク]**  アイコンをクリックまたはタッチして、関連情報を表示します。
 - c. **[CSVとしてエクスポート]**  アイコンをクリックまたはタッチして、結果をダウンロードします。

注：マップ情報コールアウトはクエリ結果でも使用できます。

アプリケーションリンクアウトの詳細については、「[アプリケーションリンクアウト](#) (57 ページ)」を参照してください。

マップ プロジェクトの変更

マップ プロジェクトを変更するには、次の手順に従います。


1. Spectrum Spatial Analyst アプリケーションを開きます。
2. マップの右上隅の**[マップの凡例]**  アイコンをクリックまたはタッチして**[マップの凡例]** パネルを開きます。
3. **[マップ プロジェクト]** ドロップダウン リストで、マップを選択します。

ベース マップの切り替え

別の種類の背景マップに切り替えることができます。例えば、航空写真、ハイブリッド、道路マップがあります。

ベース マップを変更するには、次の手順に従います。

1. Spectrum Spatial Analyst アプリケーションを開きます。

2. マップの右上隅の【マップの凡例】 アイコンをクリックまたはタッチして凡例パネルを開きます。
3. 【ベース マップ】ドロップダウン リストで、ベース マップを選択します。

言語の変更


言語は次の方法で変更できます。

1. Spectrum Spatial Analyst アプリケーション UI
2. Spectrum Spatial Analyst アプリケーション URL

注： Spectrum Spatial Analyst アプリケーションは複数の言語をサポートしています。

Spectrum Spatial Analyst UI からの言語の変更

UI から言語を変更するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の【オプション】 アイコンをクリックまたはタッチして【オプション】パネルを開きます。
2. 【言語】ドロップダウン リストから目的の言語を選択します。

例えば、アプリケーションをフランス語で表示するには、ドロップダウンリストから【フランス語】を選択します。

Spectrum Spatial Analyst URL からの言語の変更

Spectrum Spatial Analyst URL から言語を変更するには、次の手順に従います。

1. URL の末尾に "lang" パラメータを追加します。言語パラメータは、"?lang=en-gb" のように大文字、小文字を区別して記述します。

例を次に示します。

```
https://<server>:<port>/connect/analyst/mobile/#/main?lang=en-gb
```

注: デバイスのブラウザからも言語を変更できます。詳細については、デバイスのヘルプ ドキュメントを参照してください。

マップの凡例の操作

マップの凡例には、マップで利用可能なマップ オーバーレイへのキーが表示されます。注釈マナーでは、以下を行うことができます。

- マップ内のオーバーレイやレイヤを個別にオン/オフし、要件に適したマップのみを表示する。
- レイヤの透過性を調整する。
- 現在のマップ プロジェクトを保存します。

マップの凡例では、以下のアクションを実行できます。











1. 右側のメニュー  をクリックまたはタッチして **[マップの凡例]** パネルを開きます。
2. **[マップ レイヤ]** には次のオプションが表示されます。

表 1: マップ レイヤ オプション

アイコン	オプション	説明
	マップ レイヤの並べ替え	<p>このオプションを使用すると、[マップの凡例] パネルでマップ レイヤを並べ替えることができます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [マップ レイヤの並べ替え] 切り替えアイコンをクリックして、マップ レイヤの並べ替えを有効にします。 <p>注: これで並べ替えモードになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. マップ レイヤを上下にドラッグし、適切な場所に配置します。 3. 完了したら、[マップ レイヤの並べ替え] アイコンを再びクリックして、並べ替えモードを終了します。
	マップ レイヤの展開または折りたたみ	<p>切り替えアイコンをクリックすると、すべてのマップ レイヤが展開されます。同様に、もう一度クリックすると、すべてのマップ レイヤが折りたたまれます。</p>

アイコン	オプション	説明
⋮	オーバーフロー	<p>使用できるオプションを以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [プロジェクトを保存]- マップの現在の状態を保存できます。詳細については、「マッププロジェクトの保存」セクションを参照してください。 • [名前を付けてプロジェクトを保存]- 既存のマッププロジェクトのコピーを作成できます。これは、コピーを作成して管理者およびユーザが定義したマップを編集したい場合に便利です。詳細については、「名前を付けてマッププロジェクトを保存」セクションを参照してください。 • [プロジェクト設定]- 選択されているマッププロジェクトの設定を編集できます。詳細については、「プロジェクト設定」セクションを参照してください。

- 凡例で、目的のマップオーバーレイの横の**[マップ上でオーバーレイを表示\非表示]**チェックボックス をクリックまたはタッチして、マップレイヤをオンにします。オーバーレイチェックボックスは、次の3種類の状態を表すことができます。
 - チェックが入った状態 - すべての子レイヤにチェックが入っている場合。
 - チェックが入っていない状態 - すべての子レイヤにチェックが入っていない場合。
 - 不定() - すべてのレイヤではなく一部のレイヤだけにチェックが入っている場合。
- オーバーレイの名前、あるいは名前の横の または アイコンをクリックまたはタッチして、オーバーレイの凡例表示を展開したり折りたたんだりします。個々のマップレイヤをオンまたはオフにして、マップ上のレイヤを表示または非表示にすることができます。
- [マップ上でオーバーレイを表示\非表示]**チェックボックスの横の**[オーバーフロー]** アイコンをクリックまたはタッチして、レイヤの透過性を設定します。使用できるオプションを以下に示します。

アイコン	名前	説明
	複数選択	<p>クリックして、マップ上のレイヤから複数のフィーチャを選択します。選択したレイヤをクリックすると選択を解除できます。完了したら <input checked="" type="checkbox"/> をクリックすると、左側のパネルに情報が表示されます。</p> <p>注：[複数選択] オプションは名前付きレイヤ、ベクタレイヤ、クエリレイヤで使用できます。</p> <p>注：[複数選択] オプションは [追加] パネルからも使用できます。</p>
	表形式で結果を表示	<p>クリックすると、左側のパネルに表形式の詳細な結果が表示されます。</p> <p>注：管理コンソールでクエリが無効にされている場合、このオプションは使用できません。</p>
	レイヤの全体を表示	<p>クリックしてマップをズームまたは移動し、レイヤの全体を表示します。マップの表示可能な境界内のレイヤに含まれるすべてのデータが表示されます。</p>
	クエリ	<p>クリックして選択したテーブルに対するクエリを作成します。[クエリの作成] パネルが表示されます。</p>
	主題図	<p>クリックして選択したテーブルに対する主題図を作成します。[主題図の作成] パネルが表示されます。</p>
	編集	<p>クリックまたはタッチして注釈を編集します。詳細については、「注釈の編集 (87ページ)」を参照してください。</p> <p>注：このオプションは注釈にのみ使用できます。</p>
	マップ情報	<p>クリックまたはタッチすると、基になる注釈と交差する、表示可能なすべてのマップレイヤのフィーチャ情報が左側のパネルに表示されます。</p> <p>注：このオプションは注釈にのみ使用できます。</p>

アイコン	名前	説明
	移動	クリックまたはタッチして注釈を移動します。 注: このオプションは注釈にのみ使用できます。
	ズーム対象範囲	クリックまたはタッチして選択した注釈をズームします。 注: このオプションは注釈にのみ使用できます。
	新しいレコードを追加	クリックまたはタッチして選択したテーブルに新しいレコードを追加します。 [新規レコードの追加] パネルが表示されます。
	名前の変更	クリックまたはタッチして注釈の名前を変更します。 注: このオプションは注釈にのみ使用できます。
	削除	[削除] アイコンをクリックまたはタッチしてレイヤを削除します。
		[不透明度] オプションの横の + または - アイコンをクリックまたはタッチして、レイヤの透過性を増減します。

6. **[オーバーフロー]** アイコンをもう一度クリックまたはタッチして閉じます。

注: **[不透明度コントロール]** アイコンは、**[マップ上でオーバーレイを表示/非表示]** チェックボックスをクリックまたはタッチした場合のみ表示されます。



マッププロジェクトの保存

注: 管理者はいつでも **[保存]** オプションを使用できます。管理者以外のユーザ (管理者によって割り当てられた役割がないユーザ) の場合は、**Spatial Manager** で **[マッププロジェクトを保存]** の設定が有効になっている場合に限り、**[保存]** オプションが使用可能です。管理者以外のユーザによる **[保存]** オプションの使用は、**[名前を付けて保存]** オプションによって自ら作成したプロジェクトでは可能ですが、管理者によって定義されたプロジェクトの

場合は、Spatial Manager の【プロパティ】タブにある【機能プロファイル】タブで【マッププロジェクトを保存】が有効になっていても行えません。

注：ゲスト ユーザは、【保存】および【名前を付けて保存】の機能にアクセスできません。

マッププロジェクトの現在の状態を保存できます。保存するには、次の手順に従います。

1. 右側のメニュー  をクリックして【マップの凡例】パネルを開きます。
2. 【マップレイヤ】セクションの横にある【オーバーフロー】  アイコンをクリックします。
【保存】オプションが表示されます。
3. 【保存】オプションをクリックして、マップの現在の状態を保存します。マップの中心点、ズーム位置、マップ上で行われたクエリ、主題図の保存、レイヤの参照と追加、最初に表示されるレイヤ、およびマップレイヤの配置変更を保存できます。

注：【保存】オプションでは、ベクタレイヤ、ベクタレイヤに基づいたクエリ、注釈、注釈に対するクエリは保存されません。

4. 現在のマッププロジェクトが保存されます。このプロジェクトは、表示と編集のためにいつでも開くことができます。



注：マッププロジェクトの変更を保存していない場合、変更した内容は失われ、同じマッププロジェクトを後で再び開いても利用できなくなります。

名前を付けてマッププロジェクトを保存

注：管理者はいつでも【名前を付けて保存】オプションを使用できます。管理者以外のユーザ（管理者によって割り当てられた役割がないユーザ）の場合は、Spatial Manager の【プロパティ】タブにある【機能プロファイル】タブで【マッププロジェクトを保存】の設定が有効になっている場合に限り、【名前を付けて保存】オプションが使用可能です。

注：ゲスト ユーザは、【保存】および【名前を付けて保存】の機能にアクセスできません。

【名前を付けて保存】オプションを使用すると、管理者によって定義されたマッププロジェクトのコピーを保存でき、管理者以外のマッププロジェクトのコピーも作成できます。マッププロジェクトのコピーを保存するには、次の手順に従います。

1. 右側のメニュー  をクリックして **[マップの凡例]** パネルを開きます。
2. **[マップ レイヤ]** セクションの横にある **[オーバーフロー]**  アイコンをクリックします。
[名前を付けて保存] オプションが表示されます。
3. **[名前を付けて保存]** オプションをクリックして、マップの現在の状態を保存します。
[プロジェクト名の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。
4. 既存のマッププロジェクトのコピーを作成する場合のマッププロジェクト名を入力します。

注意点

- 新しいマップ プロジェクトは、管理者によって定義されたマップ プロジェクトと同じ名前にはできません。
 - 新しいマップ プロジェクトは、既存のユーザ定義マップ プロジェクトと同じ名前にはできません。
 - 新しいマップ プロジェクトは、その他のユーザ定義マップ プロジェクトと同じ名前にはできません。
5. 現在のマップ データは保存され、現在のマップ プロジェクトとして表示されます。

注：マッププロジェクトを保存すると、新しいマッププロジェクトが表示されます。保存されたマッププロジェクトは、URL パラメータによって読み込むこともできます。また、マッププロジェクトのドロップダウンリストにも表示されます。


著作権情報

著作権情報はマップの右下隅に表示されます。

注：印刷用 PDF では著作権情報は左揃えで表示され、Bing ロゴは実際のマップに表示されるオリジナル ロゴアイコンの代わりに "bing" という文字で表示されます。

4 - テンプレート デザイナ

注：この機能は管理者のみ使用できます。テンプレート デザイナを使用するには、Spectrum Spatial Analyst アプリケーションにサインインする必要があります。

管理者としてサインインすると、**[オプション]** タブの下に **[テンプレート デザイナ]**  アイコンが表示されます。

[テンプレート デザイナ] オプションをクリックして **[テンプレート デザイナ]** ウィンドウを開きます。注釈マネージャーでは、以下を行うことができます。

1. 列の選択
2. 棒グラフの作成
3. 円グラフの作成
4. テキストの追加
5. ストリート イメージの表示

独自の情報テンプレートの作成を開始するには、**[開始]** ボタンをクリックします。

このセクションの構成

新しいテンプレートの作成	29
テンプレートの編集	33

新しいテンプレートの作成

このトピックでは、テーブルを選択し、選択したテーブルの新しい情報テンプレートを作成する方法について説明します。

テンプレートを作成するには、次の手順に従います。

1. カスタムの情報マップ テンプレートを作成するテーブルを選択します。
2. **【新規作成】** ボタンをクリックします。

テンプレート デザイナ ページが表示されます。ここでは以下を選択できます。

- 列の選択
- 棒グラフ
- 円グラフ
- ストリート イメージ
- テキストの追加

列の選択

このトピックでは、列を選択し、選択したテーブルのプロパティを設定してテンプレートを生成する方法について説明します。

列を選択して新しい情報テンプレートを作成するには、次の手順に従います。

1. 左側の **【列の選択】** オプションをクリックします。
2. テンプレートに追加する列を選択します。1つまたは複数の列を選択するか、すべての列を一度に選択できます。
3. 列の **【プロパティの設定】** ダイアログ ボックスで列のプロパティを設定します。以下のタイプのプロパティがあります。
 - a. 数値 (10 進数、倍精度浮動小数点数、短整数、整数、長整数、浮動小数点数)
 - b. テキスト
 - c. イメージ
 - d. ハイパーリンク

表 2: プロパティの設定オプション

オプション	説明
値が null の場合にセクションを非表示	値が null の場合にセクションを非表示にするには、このチェックボックスをオンにします。
ラベルを表示	ラベルを表示するには、チェックボックスをオンにします。
インライン ラベル	同一行内にラベルを表示するには、これを選択します。
値の上にラベルを表示	値の上にラベルを表示するには、これを選択します。
接頭語	表示する接頭語を入力します。例えば、値に \$ を追加するには接頭語の欄に「\$」を入力します。接頭語と値の間にスペースを入れたい場合は、スペースを入力する必要があります。
接尾語	表示する接尾語を入力します。例えば、単位を追加するには接尾語の欄にその単位を入力します。接尾語と値の間にスペースを入れたい場合は、スペースを入力する必要があります。
表示方法	ドロップダウン リストからイメージ、テキスト、ハイパーリンク、電子メールのいずれかの値を選択します。
リンク ラベル	ハイパーリンクの名前を入力します。このオプションはハイパーリンクでのみ使用できます。
フレキシブル (%) ベース	イメージの表示が柔軟に調整されるようにするには、これを選択します。このオプションはイメージでのみ使用できます。
固定	イメージの幅と高さの値を指定するには、これを選択します。このオプションはイメージでのみ使用できます。

- 右側の【**プレビューと並べ替え**】パネルに選択した列が表示されます。リスト内で列名をドラッグアンド ドロップして並べ替えることができます。
- 【**保存**】ボタンをクリックして、新しいテンプレートを作成します。【**テンプレート名の設定**】ダイアログ ボックスが表示されます。
- テキスト ボックスにテンプレート名を入力して 【**保存**】をクリックします。
これらのテンプレートには、【**プロジェクト ホーム**】からアクセスできます。

棒グラフの作成

このトピックでは、棒グラフを選択し、選択したテーブルのプロパティを設定してテンプレートを生成する方法について説明します。

棒グラフを追加して新しい情報テンプレートを作成するには、次の手順に従います。

1. 棒グラフを設定するため、左側の **[棒グラフ]** オプションをクリックします。
2. **[棒グラフの追加]** ボタンをクリックして、棒グラフのプロパティを表示します。
3. **[タイトル]** テキスト ボックスに棒グラフの名前を入力します。このフィールドはオプションです。
4. **[値 (軸)]** テキスト ボックスに棒グラフの軸の値を入力します。このフィールドはオプションです。
5. 下のリストから列名を選択します。
6. **[静的な値オプションの追加]** をクリックして、棒グラフにラベルと値を追加します。この手順は省略可能です。
7. 右側の **[プレビューと並べ替え]** パネルに棒グラフが表示されます。リスト内で列名をドラッグアンドドロップして並べ替えることができます。
8. **[保存]** ボタンをクリックして、新しいテンプレートを作成します。**[テンプレート名の設定]** ダイアログ ボックスが表示されます。
9. テキスト ボックスにテンプレート名を入力して **[保存]** をクリックします。

これらのテンプレートには、**[プロジェクト ホーム]** からアクセスできます。

円グラフの作成

このトピックでは、円グラフを選択し、選択したテーブルのプロパティを設定してテンプレートを生成する方法について説明します。

円グラフを追加して新しい情報テンプレートを作成するには、次の手順に従います。

1. 円グラフを設定するため、左側の **[円グラフ]** オプションをクリックします。
2. **[円グラフの追加]** ボタンをクリックして、円グラフのプロパティを表示します。
3. **[円グラフのタイトル]** テキスト ボックスに円グラフの名前を入力します。このフィールドはオプションです。
4. 下のリストから列名を選択します。
5. **[静的な値オプションの追加]** をクリックして、円グラフにラベルと値を追加します。この手順は省略可能です。

- 右側の **【プレビューと並べ替え】** パネルに円グラフが表示されます。リスト内で列名をドラッグアンドドロップして並べ替えることができます。
- 【保存】** ボタンをクリックして、新しいテンプレートを作成します。**【テンプレート名の設定】** ダイアログ ボックスが表示されます。
- テキスト ボックスにテンプレート名を入力して **【保存】** をクリックします。
これらのテンプレートには、**【プロジェクト ホーム】** からアクセスできます。

ストリート イメージの設定

このトピックでは、ストリート イメージを設定し、事前に選択されたテーブルのプロパティを設定して、新しいテンプレートを生成する方法について説明します。

ストリート イメージを設定するには、次の手順に従います。

- 左側の **【ストリート イメージ】** オプションをクリックして、ストリート ビューを設定します。
注：Google ストリート ビューを設定するには、Spatial Manager > [プロパティ] > [グローバルプロジェクト設定] ページで Google キーを設定する必要があります。Google キーは、貴社でご購入いただく必要があります。
- 【Google ストリート ビューを追加する】** チェックボックスをオンにして、Google ストリート ビューを有効にします。
- 【マップをクリック】** または **【テーブルからの特定の座標】** によってストリート ビューを表示するには、該当するオプションを選択します。
- 【テーブルからの特定の座標】** オプションを選択した場合は、投影法と x および y の値をドロップダウン リストから選択します。
- 【保存】** ボタンをクリックして、新しいテンプレートを作成します。**【テンプレート名の設定】** ダイアログ ボックスが表示されます。
- テキスト ボックスにテンプレート名を入力して **【保存】** をクリックします。
これらのテンプレートには、**【プロジェクト ホーム】** からアクセスできます。

テキストの追加

このトピックでは、テキストを追加し、選択したテーブルのプロパティを設定して新しいテンプレートを生成する方法について説明します。

選択したテーブルにテキストを追加するには、次の手順に従います。


1. 左側の **【テキスト】** オプションをクリックして、テキストを設定します。
2. **【テキストを追加】** ボックスにテキストを入力します。
3. テキストのプロパティ オプションから、スタイル、配置、外観など、テキストのプロパティを設定します。
4. **【保存】** ボタンをクリックして、新しいテンプレートを作成します。**【テンプレート名の設定】** ダイアログ ボックスが表示されます。
5. テキスト ボックスにテンプレート名を入力して **【保存】** をクリックします。
これらのテンプレートには、**【プロジェクト ホーム】** からアクセスできます。


テンプレートの編集

このトピックでは、テンプレート デザイナによって作成された既存のテンプレートを編集する方法について説明します。

既存のテンプレートを編集するには、次の手順に従います。

1. リストから **【テーブル】** を選択します。既存のテンプレート名が記された新しいリストが表示されます。

注:  アイコンを選択して、選択されているテンプレートをデフォルト テンプレートにします。

2. 既存のテンプレート名の横にある **【編集】**  ボタンをクリックします。テンプレート デザイナのページが編集用に表示されます。ここでは、以下の編集を行うことができます。
 - 列の選択
 - 棒グラフ
 - 円グラフ
 - ストリート イメージ
 - テキストの追加
3. 変更が終了したら、**【保存】** ボタンをクリックして、テンプレートを保存します。すべての変更が既存のテンプレートに保存されます。
4. テンプレートを複製したい場合は、**【名前を付けて保存】** ボタンをクリックします。**【テンプレート名の設定】** ダイアログ ボックスが表示されます。

5. 複製されるテンプレート用に別の名前をテキスト ボックスに入力し、**[保存]** をクリックします。テンプレートが複製されると、新しいテンプレートが以前のテンプレートに重なるように画面に表示されます。

注：テンプレート デザイナの外側でテンプレートを手動で変更した場合は、テンプレート デザイナから編集する際に変更内容が失われる恐れがあります。

5 - プロジェクト ホーム

[プロジェクト ホーム] ページでは、マッププロジェクトを設定できます。マッププロジェクトの設定により、表示されるマップや、Spectrum Spatial Analyst アプリケーションでの表示に使用される設定が定義されます。マッププロジェクトは、今回のリリースの Analyst で新しく導入された概念であり、以前はマップ設定と呼ばれていました。

注：この機能は管理者のみ使用できます。マッププロジェクトに対する操作を行うには、Spectrum Spatial Analyst アプリケーションにサインインする必要があります。

管理者としてサインインすると、[オプション] タブの下に [マッププロジェクト] > [プロジェクト ホーム] アイコンが表示されます。

[プロジェクト ホーム] オプションをクリックして、[プロジェクト ホーム] ウィンドウを開きます。

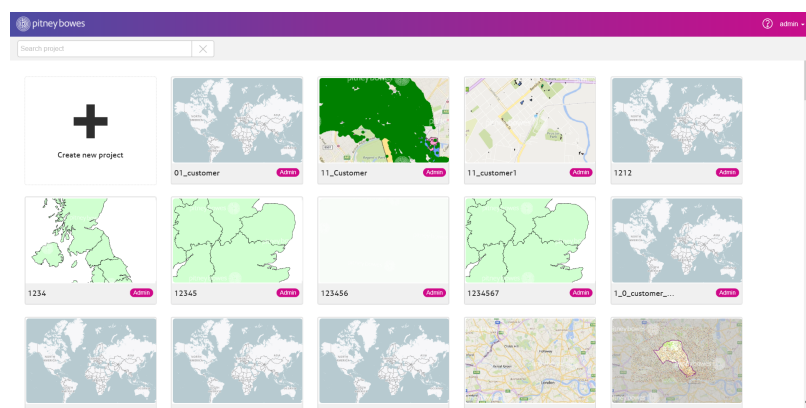



図 1: [プロジェクト ホーム] ページ

[プロジェクト ホーム] ページでは、次の操作が可能です。

1. マッププロジェクトを作成する。
2. Spectrum Spatial Analyst で既存のマッププロジェクトを開く。
3. 既存のマッププロジェクトを編集する。

4. 右上隅にある  アイコンをクリックしてヘルプを参照する。このヘルプパネルには、Spectrum Spatial Analyst のさまざまなユーザ ガイドおよびユーティリティ リンクが用意されています。
5. 管理モードからのサインアウトを右上隅で行う。
6. また、URL を使用して、ホーム ページに直接アクセスしてサインインを行うこともできます (例: `http://ssa-server-name:8010/connect/analyst/mobile/#/home`)。

このセクションの構成

新しいマップ プロジェクトの作成	37
プロジェクト設定	42

新しいマップ プロジェクトの作成

ホームページには、すべてのプロジェクトのリストがプロジェクトのサムネイル画像付きで表示されます。プロジェクトのリストと最上部にあるフィルタ オプションを使用すると、プロジェクトのフィルタリングと検索を行うことができます。プロジェクトのサムネイルに対してマウス ポインタを重ねるかタッチ操作を行うと、そのプロジェクトを削除または複製したり、表示または編集のために開いたりするオプションが表示されます。また、新しいプロジェクトを作成するオプションも表示されます。



図 2 : [プロジェクト ホーム] ページ

新しいプロジェクトを作成するには、次の手順に従います。

1. **[新しいプロジェクトの作成]** タイルにある **+** アイコンをクリックして、新しいプロジェクトを作成します。

[プロジェクト名の設定] ダイアログ ボックスが表示されます。

2. マッププロジェクトの名前を入力します。

注：マッププロジェクト名では、次の点に注意してください。

- アルファベットに含まれる文字のみを使用する。
- スペースおよび特殊文字を含めてはならない。
- 大文字と小文字を区別する。

3. **[新規作成]** ボタンをクリックします。

入力した名前を持つ新しいマッププロジェクト ページが表示されます。以下のセクションを使用して、プロジェクトを定義できます。

- ベースマップ
- ビジネスマップ
- プロジェクト設定
 - プロファイル設定
 - 近傍検索
 - 範囲
 - 権限

注：初期状態では、新しいマッププロジェクトに、デフォルトのマッププロジェクトのベース マップと設定が読み込まれます。新しいマッププロジェクトを作成後、そのプロジェクトを開いたり編集したりできます。

ベース マップの設定


ベースマップは複数のレイヤで構成することができます。ベースマップは、マップへの追加データのレイヤリングなど、マップ操作の開始点になります。通常、ベース マップは衛星画像や道路マップで、その上にビジネス データが重ねられます。

注：デフォルトでは、Bing マップ レイヤが表示されます。

ベース マップを設定するには、次の手順に従います。




1. 画面の右側にある **[レイヤの管理]** ボタンをクリックします。
[レイヤの管理] ダイアログ ボックスが開きます。
2. **[レイヤの管理]** ダイアログ ボックスで、ドロップダウンリストからレイヤ カテゴリを選択します。Bing または Google、および Open Street Map (OSM) を選択できます。

注：Google マップまたは Bing マップのどちらかを追加できます。Google マップを追加すると、Bing マップはマッププロジェクトからすべて削除されます。逆も同様です。

3. チェック ボックスのクリックによって **[マップ]** リストからマップ レイヤを選択します。複数のレイヤを選択できます。ベース マップ レイヤのリストが画面に表示されます。
4. マップ レイヤを追加したら、**[閉じる]**  ボタンをクリックして **[レイヤの管理]** パネルを折りたたみます。

ベース マップには次のプロパティがあります。

表 3 : ベース マップのプロパティ

プロパティ	説明
マップおよびレイヤ	空間サービス内でタイリングまたはマッピング用に定義されているマップの名前を表示します。
フレンドリ名	Web サイトのユーザがマップを識別する、短くてわかりやすい表示名です。
不透明度	スライダを動かして、マップの透過度を選択します。値の範囲は 0% ~ 100% です。0% は完全に透明で見えないマップを表し、100% は不透明なマップを表します。
	選択されているベース マップ レイヤをドラッグアンドドロップによってリスト内で並べ替えます。デフォルトでは、最後のマップ レイヤがマップ上に表示されます。表示を変更する場合は、表示したいマップ レイヤをリストの最後に移動します。
	[静的マップ] アイコンです。
	リストからベース マップ レイヤを削除します。

5. **[保存]** ボタンをクリックして、ベース マップ プロジェクトに対する変更内容を保存します。

ビジネス マップの設定

ビジネス マップには、組織のアクティビティまたはビジネスに関連する情報(データ)が含まれます。コンテキストを取得するため、1 つ以上のビジネスマップがベース マップにオーバーレイされます。例えば、学校の位置を示すビジネスマップを、ビジネスマップの上にオーバーレイできます。

ビジネス マップを設定するには、次の手順に従います。

1. [基本プロパティ] にある **[レイヤの管理]** ボタンをクリックします。
[レイヤの管理] パネルが開きます。

2. **[レイヤの管理]** パネルで、ドロップダウン リストからレイヤ カテゴリを選択します。複数のレイヤを選択できます。



注： Spectrum Spatial マップ、レイヤ、およびタイルを追加できます。

3. **[検索]** ボックスで、ビジネス マップに追加するレイヤを探します。
4. リストからレイヤを選択します。複数のレイヤを選択できます。


5. マップレイヤを追加したら、**[閉じる]**  ボタンをクリックして**[レイヤの管理]** ダイアログ ボックスを閉じます。

ビジネス マップには、次のプロパティがあります。

表 4：ビジネス マップのプロパティ

プロパティ	説明
基本プロパティ	ビジネス マップの基本プロパティを表示します。
	レイヤを再配置する場合にクリックします。
	レイヤの展開/折りたたみを行う場合にクリックします。
> マップ情報を有効にする	<p>ユーザが Spectrum Spatial Analyst アプリケーションでマップ情報やコールアウトを確認できるようにします。</p> <p>注： [マップ情報] オプションを無効にしている場合、そのマップではコールアウト、クエリ、および主題図の機能も無効になります。</p>
> 検索の幅 (ピクセル)	<p>マップ情報検索の幅(ピクセル単位)です。この値は、ユーザがマウス ポインタの下にあるフィーチャのマップ情報を表示するために Spectrum Spatial Analyst でマップ上をクリックした場合に使用されます。</p> <p>検索の幅は、元となるフィーチャ検索の実行時にマウス ポインタの位置の周囲に作成される正方形のバッファの辺の長さを表します。この値は、ポイントフィーチャを検索する場合に特に重要です。マウス ポインタでは、ポイントの座標を正確にヒットすることは不可能だからです。また、ポイントは通常 2 次元アイコンで表されるため、検索の幅をアイコンの最大直径と同じにすることで、アイコン上のどこをクリックしても、期待される結果を取得することができます。マップ情報検索の幅は、[マップの凡例] パネルから使用できる複数選択機能でも使用されます。</p>

プロパティ	説明
>最大キャッシュタイム(秒単位)	マップをキャッシュする最大秒数を指定します。デフォルト値は 3600 秒です。
著作権	マップの著作権表示。著作権表示は、対応するマップが表示されている場合にのみ、Spectrum Spatial Analyst に表示されます。
テンプレート	[テンプレート マッピング] タブでは、マップ プロジェクトに存在するテーブルとマップ情報コールアウトやフィーチャの編集/挿入検証テンプレートを関連付けることができます。
> 情報テンプレート	ドロップダウン リストからマップ情報テンプレートを選択します。このリストには、customerconfigurations\analyst\theme\infotemplates ディレクトリにあるすべてのテンプレートが表示されます。
> フィーチャ編集テンプレート	ドロップダウンリストからフィーチャ編集テンプレートを選択します。このドロップダウン リストには、フィーチャ編集テンプレート ディレクトリ customerconfigurations\analyst\theme\featureEditTemplates にあるすべてのテンプレートが表示されます。
FMN	[近傍検索] (FMN) タブでは、マップ マーカー、結果アイコン、フレンドリ名、各テーブルのコールアウト テンプレートを変更して、近傍検索の設定を変更できます。
> FMN を有効にする	選択中のレイヤで FMN を有効にする場合にクリックします。
> マップ マーカー	<p>フォントおよびカスタム シンボルを選択するには、[マップ マーカー] アイコンをクリックします。SSA はデフォルトで、カスタム シンボル、カスタム シンボル PinPoint、およびカスタム シンボル CivicEngland をサポートしています。</p> <p>注：FMN カスタム アイコンは .png、.jpg、.jpeg、.bmp、および .gif をサポートしています。</p> <p>独自のカスタム シンボルを Spectrum に追加することもできます。これらはシンボル選択ダイアログに "アップロード済みのシンボル" として表示されます。詳細については、「カスタム シンボル」を参照してください。</p> <p>目的のシンボル、[選択] ボタンの順にクリックします。</p>

プロパティ	説明
> FMN 名	FMN のフレンドリ名を入力できます。
クエリ	[クエリ] タブでは、ユーザによる選択テーブルのデータの表示を有効にすることができます。
> クエリを有効にする	ユーザが選択テーブルに対するクエリを実行できるようにします。
> CSV エクスポートを有効にする	Spectrum Spatial Analyst 上で、クエリ結果を CSV ファイルにエクスポートできます。
データバインド	[データバインド] タブでは、Spectrum Spatial Analyst Web アプリケーションでマップレイヤに複数のデータバインドを割り当てることができます。 Spectrum Spatial Analyst で表示するデータバインドを選択します。Spatial Manager の [プロパティ] タブ > [データバインド] ページで作成したテーブルに対応するすべてのデータバインドが一覧表示されます。
	リストからビジネス マップ レイヤを削除します。

6. **[保存]** ボタンをクリックして、マッププロジェクトに対する変更内容を保存します。

プロジェクト設定

[プロジェクト設定] セクションでは、プロファイルの設定や、Spectrum Spatial Analyst アプリケーションでの表示に使用されるマッププロジェクトの範囲や権限の設定を行うことができます。

機能プロファイル

このセクションでは、選択されているプロジェクトに機能プロファイルを割り当てる方法について説明します。

機能プロファイルを追加するには、次の手順に従います。

1. **【機能プロファイル】** ドロップダウンリストで、機能プロファイルを選択します。
2. **【保存】** ボタンをクリックして、選択した機能プロファイルをプロジェクトに追加します。

注：機能プロファイル設定は、**Spatial Manager**で行います。詳細については、『**Spatial Manager ガイド**』を参照してください。

最寄検索

このセクションでは、選択されているプロジェクトに最寄検索の機能を追加する方法について説明します。

選択されているプロジェクトに最寄検索の機能を追加するには、次の手順に従います。

設定	説明
近傍検索を有効にする	選択されているマップで近傍検索が有効であるかどうかを示します。
近傍検索の設定	ドロップダウン リストから最寄検索の設定を選択します。
近傍検索の結果を CSV としてエクスポート	選択されている FMN (最寄検索) 設定によって最寄検索の結果を CSV ファイルにエクスポートできるかどうかを示します。

範囲

このセクションでは、ズーム レベル、移動可能範囲、投影法のようなマップ ビュー プロパティの指定方法について説明します。

[範囲] は、ユーザが移動できる移動可能範囲です。例えば、**Bing Maps** を使用する場合は、ユーザの移動をニューヨークのエリア内のみに制限するように移動可能範囲を設定し、最小ズームレベルを使用して世界全体へのズームアウトを防ぐことができます。移動可能範囲は、ベースマップのロード時に設定された最大範囲より小さくしなければならず、同じ単位 (通常はメートル) で指定する必要があります。

マップの範囲を設定するには、次の手順に従います。

1. キーボードの **Shift** キーを押して、範囲を設定するマップをクリックします。ここで、ドラッグ操作によって範囲を示す長方形を描画します。
2. 移動可能範囲への移動とズームを行うことができます。

注：デフォルトでは、Bing Map が範囲のマップとして使用されます。

設定	説明
投影法	マップの座標系/投影法。この選択を行うには、ベース マップのいずれかを選択します。このベースマップにより、マッププロジェクトの投影法が指定されます。その他のベース マップやビジネスマップでは、投影法がすべて異なっていても構いません。Analyst は、ここで選択された投影法に一致するようにそれらの再投影を行います。
北の範囲	ユーザが移動できるマップの北端。
南の範囲	ユーザが移動できるマップの南端。
東の範囲	ユーザが移動できるマップの東端。
西の範囲	ユーザが移動できるマップの西端。
最小ズームレベル	マッププロジェクトの最小ズームレベルに設定できる最小値は 2 です。これがマッププロジェクトで最も縮小できるレベルになります。レベル 1 では非常に小さいマップ タイルの周囲に常に空白が表示されるため、レベル 1 は使用できません。

設定

説明

最大ズームレベル

マップ設定の最大ズームレベルとして 25 が設定可能です。1 つ重要な点として、多くのタイル サービス プロバイダが 25 という最大ズームレベルをサポートしないことに注意してください。例えば、Google Maps は最大で 21 のズームレベルまでしかサポートしません。このように、サポートされる最大ズームレベルがマップ設定の最大ズームレベルよりも小さい場合、SSA は残りのズームレベルについて、クライアント側でマップイメージを拡大することによってマップをレンダリングします。異なるタイル マップ プロバイダの詳しい最大ズームレベルについては、以下の表を参照してください。

Bing 航空写真、Bing ハイブリッド、Open Street Map	19
Bing 道路	20
Europa TMS	15
Google Maps	21
その他すべての XYZ または TMS レイヤ	20
Spectrum Spatial タイル マップ	規定のサポート レベル

初期ズームレベル

起動時にマップが表示されるズームレベル。使用可能なズームレベル範囲内の数値でなければなりません。数値が大きくなればなるほど、より拡大されたマップが表示されます。

検索のズーム

Spectrum Spatial Analyst の Web サイトの訪問者が住所/場所を検索する際にマップをズームするズームレベル。ユーザが住所/場所を検索する場合は、周辺地域を拡大されたレベル(ストリートレベルなど)で表示したいことが多く、ズームレベルの数値は大きくなります。

ズームレベルの説明

ユーザが表示しているズームレベル(ストリート ビューと都市ビューなど)を示すためにズーム スライド上に表示されるテキスト ラベル。

表示単位

最寄検索結果ウィンドウで結果の表示に使用される距離単位。使用可能なドロップダウン リストから任意の値を選択できます。例えば、メートル/キロメートルを選択します。

権限


このセクションでは、マッププロジェクトでの権限の設定について説明します。権限は、右側のパネルに一覧表示される役割に対して設定されます。役割は、Spectrum の Management Console で定義されています。

Spectrum の役割のうち、Analyst で始まる役割のみ (AnalystUserRole や AnalystGuestRole など) が Spectrum Spatial Analyst に一覧表示されます。管理者は、使用可能な役割のリストから 1 つ以上の役割を選択できます。

設定された権限は、マッププロジェクトで参照されている、名前付きのマップ、レイヤ、タイトル、テーブルにも伝播します。これらのリソースに対する個々の権限は、Spectrum Spatial Manager で確認できます。

管理者は権限を割り当てる際、ゲストの役割に十分な注意を払う必要があります。ゲストの役割は、Analyst がゲスト & セキュアモードでインストールされている場合のみ使用可能です。Analyst がゲスト & セキュアモードでインストールされている場合、ユーザは認証を行わずに Analyst を閲覧し、ゲストの役割に割り当てられたマップとデータを表示することができます。すべてのユーザは、初めはゲストモードで Analyst にアクセスし、その後サインインを選択して、自分が属する役割に割り当てられたセキュアなデータを表示することができます。

選択されているマッププロジェクトに権限を追加するには、次の手順に従います。

1. **【権限】** ページで、画面の右側にある **【使用可能な役割】** ボタンをクリックします。
【使用可能な役割】 パネルが表示されます。
2. **【使用可能な役割】** パネルで、選択されているマッププロジェクトに割り当てる役割を選択します。
3. **【保存】** ボタンをクリックして、変更を保存します。
4.  ボタンをクリックすると、その役割が **【役割】** の一覧から削除されます。

6 - 新規レコードの追加と編集

このセクションの構成

新規レコードの追加	48
レコードの編集	50
レコードの削除	51



新規レコードの追加

このトピックでは、テーブルに新規レコードを追加する方法について説明します。

注：この機能は管理者によって付与された権限に基づき使用可能です。


Spectrum Spatial Analyst では、テーブルに新規レコードを追加できます。また、レコードの編集と削除も可能です。

新規レコードを追加するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[新規レコードの追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして新しいレコードを追加します。
3. **[ツールセットの編集]** オプションを展開してマップ上にフィーチャを描画するツールを選択します。例えば、ポイント、ライン、円、長方形、ポリゴンなどのツールを選択できます。描画せずに終了するには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。

注：ツールセットは、管理者の行った設定に基づき使用可能です。設定により、ツールセットの一部が表示されない場合があります。

注：レコードに追加できる図形タイプは1つだけです。ポイント、ライン、ポリゴンのいずれかを追加できますが、異なる図形タイプを組み合わせることはできません。ツールセットを使用して複数の図形を追加した場合、これらの図形はマージされます。

4. ツールセットの **[マップから選ぶ]** オプションを使用して既存のフィーチャを選択することもできます。詳細については、「[マップから選ぶ](#)」セクションを参照してください。
5. フィーチャを描画すると、自動的に描画モードが終了します。フィーチャがマップ上に描画され、**[ワークスペースの編集]** にも表示されます。
6. **[ワークスペースの編集]** と **[フィーチャ]** リストの横の **[マップ上でオーバーレイを表示/非表示]** チェックボックス をクリックまたはタッチして、マップ オーバーレイをオンまたはオフにします。
7. フィーチャの横の **[オーバーフロー]**  アイコンをクリックまたはタッチして、編集オプションを表示します。次のオプションが表示されます。




プロパティ	説明
ワークスペースの編集	これがメインのフィーチャグループです。使用できるオプションを以下に示します。
選択中の注釈を削除	選択したフィーチャを削除できます。
フィーチャー レイヤ	これはマップ上に作成したフィーチャのリストです。例えば、ポイント、ライン、円、長方形、ポリゴンが表示されます。
編集	フィーチャを編集できます。注釈を変更するには、タップし、ドラッグし、再びタップして解除します。頂点を削除するには、その上をダブルタップまたはクリックします。 注：この機能は、ラインおよびポリゴンでのみ使用できません。
移動	フィーチャを移動するには、フィーチャをクリックまたはタッチして配置を変更します。
ズーム対象範囲	選択したフィーチャをズームできます。
削除	選択されたフィーチャを削除します。

8. **[フィーチャ]** をクリックまたはタッチしてプロパティを開きます。フィーチャをもう一度クリックまたはタッチすると、プロパティ ダイアログ ボックスが閉じます。
9. **[属性]** オプションを展開します。選択されたテーブルごとの一意の番号、スペースのタイプ、今後の使用などのオプションを含むフォームが表示されます。
10. レコードを保存してさらにレコードを追加するには、**[さらに追加]** チェックボックスをオンにします。
11. **[追加]** ボタンをクリックまたはタッチしてレコードを追加します。**[終了]** ボタンをクリックまたはタッチして保存せずに終了します。ダイアログ ボックスが表示されます。
12. **[///Name of the Record///]** テキスト ボックスに名前を入力します。
13. **[適用]** をクリックまたはタッチして新規レコードを追加します。

レコードの編集

注：この機能は管理者によってテーブルに付与された権限に基づき使用可能です。完全な編集権限がある場合と、属性の編集権限のみの場合があります。

Spectrum Spatial Analyst では、テーブル上の属性データの更新とジオメトリの編集が可能です。既存のレコードを編集するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の【マップの凡例】 アイコンをクリックまたはタッチして【マップの凡例】パネルを開きます。
2. レイヤを有効にしていない場合は有効にして、レコードを編集できるようにします。
3. マップ上をクリックまたはタップすると、左側のパネルに情報を含むコールアウトが表示されます。
4. 【オーバーフロー】 アイコン > 【レコードの編集】をクリックまたはタッチしてレコードを編集します。
右側に【レコードの追加/編集】が開き、編集可能になります。フィーチャと属性を追加または編集できます。
5. 【ワークスペースの編集】オプションから編集または追加するフィーチャを選択します。これにより描画モードに入ります。さらにフィーチャを描画することもできます。ツールセットを使用して複数の図形を追加した場合、これらの図形はマージされます。
6. フィーチャを編集すると、自動的に描画モードが終了します。
7. フィーチャの横の【オーバーフロー】 アイコンをクリックまたはタッチして、編集オプションを表示します。
8. 【フィーチャ】をクリックまたはタッチして、プロパティを表示または編集します。フィーチャをもう一度クリックまたはタッチすると、プロパティ ダイアログ ボックスが閉じます。
9. 【属性】オプションを展開して、レコードを編集します。選択されたテーブルごとの一意の番号、スペースのタイプ、今後の使用などのオプションを含むフォームが表示されます。
10. 編集が完了したら、次のいずれかの方法でレコードを保存できます。
 - a. レコードを保存して【レコードの追加/編集】パネルでさらに編集を行うには、【保存】ボタンをクリックまたはタッチします。または、
 - b. レコードを保存してパネルを閉じるには、【保存して終了】ボタンをクリックまたはタッチします。

これによりレコードが更新されます。



11. 保存せずに終了するには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。

レコードの削除

注：この機能は管理者によってテーブルに付与された権限に基づき使用可能です。

Spectrum Spatial Analyst では、テーブル上の属性データの更新とジオメトリの編集が可能です。また、レコードの挿入と削除も可能です。

既存のレコードを削除するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. レイヤを有効にしていない場合は、有効にします。
3. マップ上をクリックまたはタップすると、コールアウトに情報が表示されます。左側のパネルにもコールアウト情報の詳細が表示されます。
4. **[オーバーフロー]**  アイコン > **[レコードの削除]** をクリックまたはタッチしてレコードを削除します。
レコードの削除を確認するダイアログが表示されます。
5. **[削除]** をクリックまたはタップしてレコードを削除します。

7 - クエリの作成

クエリビルダでは、マップ上に表示されている個別のマップレイヤの情報を検索することができます。結果はインタラクティブなテーブルとして表示されます。テーブル上の結果をタップすると、マップ上のフィーチャがズームされて強調表示されます。レイヤのデータをすべて検索して表示したり、検索対象を現在のマップビュー内に限定したり、マップ上に注釈として描画したシェイプ内にある情報を検索したりできます。一部のレイヤについて **Spectrum Spatial Analyst** 管理者は追加のフィルタ基準を設定し、ユーザはこの基準を選択して、取得した結果をさらに絞り込むことができます (例えば、ある日付範囲内の結果を返したり、その他の何らかの値を満たす結果を返したりします)。

クエリを設定すると、さらに詳細なマップ検索を実行できます。



このセクションの構成

クエリの作成	53
クエリのスタイル設定	55
クエリ結果ビュー	56

クエリの作成

[クエリを作成] オプションを使用すると、現在表示中のどのレイヤからでも、属性データに対して表形式クエリを実行できます。

クエリを作成するには、次の手順に従います。


1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[クエリを作成]**  アイコンをクリックまたはタッチしてクエリを作成します。
3. **[ソース]** ドロップダウンリストから、検索するマップレイヤの名前を選択します。
4. **[クエリ対象地域]** ドロップダウンリストから、クエリの対象にする地理的な地域を選択します。マップ領域全体のデータを表示するようにすることも、表示されているマップ領域内のデータに限定することもできます。または、描いた注釈の1つを選択し、その内側のデータまたは注釈が触れるデータを検索することもできます。

注：クエリの複数のオプションを選択できます。

5. **[フィルタ]** ドロップダウンリストから、次のいずれかを選択します。
 - **[フィルタなし]** - フィルタ基準が選択されていません。
 - **[カスタム フィルタ]** - **[フィルタ基準]** ダイアログ ボックスを表示し、検索をカスタマイズすることができます。選択すると、**[フィルタ条件]** セクションが表示されます。

表 5：カスタム フィルタ条件のオプション

オプション	説明
列	クエリの対象にする列を選択します。
演算子	ドロップダウンリストから検索演算子を選択します。以下の検索演算子が用意されています。
=	この演算子を使用すると、条件テキスト ボックスに入力したテキストまたは値に一致するレコードが検索されます。

オプション	説明
<>	この演算子を使用すると、条件テキストボックスに入力した値に一致しないすべての値が検索されます。
<	この演算子を使用すると、条件テキストボックスに入力した値より小さいすべての値が検索されます。
>	この演算子を使用すると、条件テキストボックスに入力した値より大きいすべての値が検索されます。
>=	この演算子を使用すると、条件テキストボックスに入力した値以上のすべての値が検索されます。
<=	この演算子を使用すると、条件テキストボックスに入力した値以下のすべての値が検索されます。
が次を含む	この演算子を使用すると、選択したフィールドのレコードで条件の値を含むレコードが検索されます。
値	演算子を用いて照合する値を入力します。 注：設定した列に関連付けられたレコードが 50 未満の場合は、複数選択オプションのあるドロップダウンリストとして条件が表示され、レコードが 50 を超える場合は、条件がテキスト ボックスとして表示されます。
他の条件を追加	クリックまたはタップして検索条件を追加します。検索条件は最大5つ追加できます。 注：検索条件を削除するには、  アイコンをクリックまたはタップします。

- **[その他]** - プロジェクト ホームから作成されたクエリ フィルタです。

注：一部のレイヤには、フィルタ基準を選択できるリストがあります。フィルタ基準が存在する場合は、追加のテキスト ボックスまたは選択リストが表示され、返された結果をさらに絞り込むことができます。

6. **[色]** の選択から色を選択して、クエリをその色でマップ上に表示します。後で**[マップの凡例]** パネルから色を変更することもできます。詳細については、「[クエリのスタイル設定 \(55ページ\)](#)」を参照してください。
7. デフォルトの名前を変更する場合は、**[クエリ レイヤ名]** テキスト ボックスに名前を入力します。



8. **[作成]** ボタンをクリックまたはタッチし、マップ上にクエリ結果を表示します。クエリ結果は左側に一覧表示されます。詳細については、「[クエリ結果ビュー](#)」を参照してください。



クエリ結果名は **[マップの凡例]** パネルにも一覧表示されます。



注：マップ上のクエリ結果の任意の場所をクリックまたはタップして、コールアウト情報を表示できます。詳細については、「[マップ情報コールアウト](#)」を参照してください。

クエリのスタイル設定

マップ上に表示するクエリの色を変更できます。クエリのスタイルを設定するには、次の手順に従います。

- 右側のメニュー  をクリックまたはタッチして **[マップの凡例]** パネルを開きます。
- [マップの凡例]** で、スタイルを設定するクエリをクリックまたはタッチします。
- [色]** の選択から色を選択して、マップ上に表示するクエリの色を変更します。
- クエリ レイヤ名の横の **[マップ上でオーバーレイを表示/非表示]** チェックボックス をオンまたはオフにして、マップ上でのオーバーレイをオンまたはオフにします。
- [オーバーフロー]**  アイコンをクリックまたはタッチして、編集オプションを表示します。

アイコン	名前	説明
	複数選択	クリックして、マップ上のレイヤから複数のフィーチャを選択します。選択したレイヤをクリックすると選択を解除できます。完了したら <input checked="" type="checkbox"/> をクリックすると、左側のパネルに情報が表示されます。
	表形式で結果を表示	[結果の表示] アイコンをクリックまたはタッチすると、左側のパネルにクエリ結果が表示されます。


アイコン	名前	説明
	削除	[削除]アイコンをクリックまたはタッチしてクエリ結果を削除します。
	不透明度	[不透明度] オプションの横の + または - アイコンをクリックまたはタッチして、レイヤの透過性を増減します。

関連概念

[クエリ結果ビュー](#) (56ページ)

クエリ結果ビュー

クエリ結果は画面の左側に表示されます。注釈マネージャーでは、以下を行うことができます。

- 列見出しをタップして結果を並べ替えます。[昇順で並べ替え]、[降順で並べ替え]、または[ワールドの非表示] ドロップダウン オプションを選択できます。
- ページ間を移動します。
- 表示されたデータを CSV ファイルとしてエクスポートします。
- 選択したデータを CSV ファイルとしてエクスポートします。
- すべてのデータを CSV ファイルとしてエクスポートします (または、一度に 1 ページをエクスポートします)。
- 各結果をクリックまたはタップして、マップ上のレコードをズームおよび強調表示します。
- 列と列の間の端をドラッグして、列幅のサイズを変更します。
- テーブルの上部にあるハンドルを移動して、テーブル全体をドラッグします。
- [クエリ結果] タブを閉じることもできます。
- クエリ結果は [マップの凡例] にも一覧表示されます。
- クエリ結果として表示された個々のジオメトリをクリックまたはタップすることができます。その属性をコールアウトで確認できます。
- [削除] アイコン  をクリックまたはタップして、[マップの凡例] からクエリ結果を削除できます。
- クエリ結果を印刷することもできます。詳細については、「[マップの印刷](#) (111ページ)」を参照してください。

アプリケーション リンクアウト

Spectrum Spatial Analyst を使うと、サポートされる外部アプリケーションでクエリ結果を開くことができます。これは、アプリケーション リンクアウトと呼ばれる機能です。Spectrum Spatial Analyst は、現在の選択セットのバインド列を XML 形式で外部アプリケーションに引き渡すように設定されています。例えば、選択したレコードの `central_asset_id` 列の値を **Confirm** アプリケーションに引き渡すことができます。**Confirm** アプリケーションが開くと、選択した `central_asset_id` に対応するレコードが表示されます。



サポート対象の外部アプリケーションは、その選択の説明に基づいて独自の選択セットを同期させ、アプリケーション間のシームレスなワークフローを実現することができます。

前提条件

外部アプリケーションへのリンクアウトを有効にするには、以下の前提条件を満たす必要があります。

1. コントローラ プロパティから、SSA での **Applinking** を有効にする必要があります。
2. ノード サーバーが稼働している必要があります。
3. GLF がインストールされており、リンクアウト用に設定されている必要があります。
4. ブラウザから SSA にアクセスするマシンにサードパーティ アプリケーションがインストールされている必要があります。

外部アプリケーションでクエリ結果を開くには、次の手順に従います。

1. **Spectrum Spatial Analyst** アプリケーションを開き、クエリを作成します。詳細については、「[クエリの作成](#)」を参照してください。
2. クエリ結果ビューで、**[メニュー]**  ボタンをクリックまたはタッチします。
3. **[リンクアウト]**  ボタンをクリックまたはタッチして、**Confirm** アプリケーションなどのサポートされているアプリケーションでクエリの結果を開きます。

外部アプリケーションが起動し、クエリ結果を表示します。最大で 1000 件の結果を 1 度にエクスポートできます。

注：Spectrum Spatial Analyst におけるアプリケーション リンクアウトの設定の詳細については、『*Spectrum Spatial Analyst 管理ガイド*』の「[付録 C- 外部アプリケーション リンク](#)」を参照してください。

8 - レイヤの追加

注：Spectrum Spatial Analyst で使用できる機能は、各組織の管理者によって管理されます。ユーザによっては、これらのツールを使用できない場合があります。

このセクションの構成

Spectrum Spatial レイヤの追加	59
ベクタ レイヤの追加	60
ベクタ レイヤの編集	63

Spectrum Spatial レイヤの追加

Spectrum Spatial Analyst では、マップに Spectrum Spatial レイヤを追加できます。



注：この機能は管理者によって付与された権限に基づき使用可能です。

Spectrum Spatial レイヤ ファイルの追加

Spectrum Spatial Analyst では、マップに Spectrum Spatial レイヤを追加できます。

注：この機能は、管理者が指定する設定に基づいて使用可能になります。

レイヤを追加するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[レイヤの追加]** オプション  をクリックまたはタッチしてマップに Spectrum Spatial レイヤを追加します。 **[Spectrum レイヤの追加]** ページに、すべてのレイヤ名の一覧が表示されます。
3. 検索ボックスにレイヤ名を入力してファイルを絞り込みます。
4. マップに追加するレイヤの名前を選択します。複数のレイヤを選択してマップに追加することができます。
5. ⓘ ボタンをクリックすると、目的のレイヤの詳細が表示されます。表示可能な場合はレイヤのプレビュー画像も表示されます。
6. **[選択されたレイヤを追加]** ボタンをクリックして、Spectrum Spatial レイヤをマップに追加します。有効なレイヤがマップに追加され、**[マップの凡例]** パネルに一覧表示されます。
7. 追加したレイヤは、**[マップの凡例]** パネルから削除できます。詳細については、「**[マップの凡例]** パネル」を参照してください。

注：追加したレイヤはマッププロジェクトには保存されません。これらのレイヤはユーザーセッションの間保持され、ユーザーがページの更新、マッププロジェクトの変更、ログイン、またはログアウトを行うと消去されます。

注：次のタイプのレイヤのみサポートされています。

```
NamedFeatureLayer/ NamedChartLayer /NamedPieLayer /NamedBarLayer/  
NamedGraduatedSymbolLayer
```

レイヤにラベルがリンクされている場合、そのラベルもマップに追加されます。

注：上記のいずれかのレイヤを追加するには、対応するテーブルへの権限が必要です。

ベクタ レイヤの追加

Spectrum Spatial Analyst では、メタデータ オプション ファイルとともに CSV、XLS、Geojson、KML ファイルをマップに追加できます。



注：システムの最適なパフォーマンスを実現するため、[レイヤの参照と追加] で追加するベクトル データ ポイントの推奨範囲は、内部ベンチマークに基づいて 1 から 100000 ポイントとします。それを超えた場合は、移動/ズーム使用時のヒート マップのビューのシステム応答に時間がかかる場合があります。

注：この機能は管理者によって付与された権限に基づき使用可能です。

CSV、XLS、XLSX ファイルからのレイヤの追加

注：この機能は、管理者が指定する設定に基づいて使用可能になります。

Spectrum Spatial Analyst では、.csv、.xls、または .xlsx ファイルからデータをマップにインポートできます。.csv、.xls、または .xlsx ファイルからデータをインポートするには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[レイヤの参照と追加]** オプション  をクリックまたはタッチしてマップにベクタ レイヤを追加します。

[ファイルの追加] ページが表示されます。

3. **[ファイルを選択]** ボタンをクリックまたはタッチして .csv、.xls、または .xlsx ファイルをインポートします。ファイルが正常にインポートされたら、地図上に **[住所]** または **[座標]** をプロットすることを選択できます。

注：最大 1000 個のレコードのみジオコードできます。ブラウザの制限とデータ構造の違いにより、ベクタ マッピング用にアップロードできるファイルのサイズには制限があります。通常は、ファイルのサイズを 25 MB 以下にすることを推奨しますが、データの複雑さやファイルの形式によっては、最大 80 MB までアップロードできます。例えば、サイズが 85 MB の GeoJSON ファイルも処理できています。

注意点-

- csv、xls、xlsx ファイルがアップロードされる際に、ファイルの列名が空欄になっていると、その列全体が削除されます。
 - 列名が重複している場合、コールアウト、クエリ、ダウンロードでは最後の列のみの値が利用され、重複した列は表示されません。
 - ファイルにヘッダがまったく存在しない場合、コールアウト、クエリ、ダウンロードでは column1、column2、column3 などのデフォルトの列名が表示されます。
 - UTF-8 でエンコードされたファイル (kml、geojson、csv、xls、xlsx) のみがサポートされています。それ以外の場合、データが破損していると思なされます。
4. **[住所]** ラジオ ボタンを選択して、ジオコードされる住所の列が含まれるファイルをインポートします。ポイントはマップ上にビジネス レイヤとして表示されます。

注：このオプションは、管理者がジオコーダとして Global Geocoding または LI API geocoder モジュールを選択した場合のみ使用できます。

- a) **[次へ]** をクリックまたはタッチします。**[座標の選択]** ページが表示されます。使用できるオプションを以下に示します。

オプション	説明
先頭行をヘッダにする	選択したファイルの先頭行をヘッダにするかどうかを指定します。
住所列を選択	ドロップダウン リストから住所列を選択します。
スタイル	ドロップダウンからスタイルの色とシェイプを選択します。
戻る	前の画面に戻ります。

5. **[座標]** ラジオ ボタンを選択して、**x-y** 座標または緯度と経度が含まれるファイルをインポートします。これらのポイントは、マップにビジネス レイヤとして直接表示されます。
- a) **[次へ]** をクリックまたはタッチします。**[座標の選択]** ページが表示されます。使用できるオプションを以下に示します。

オプション	説明
先頭行をヘッダにする	選択したファイルの先頭行をヘッダにするかどうかを指定します。
投影法	<p>投影法を選択するか、EPSG:<projection> という形式で入力します。</p> <p>以下のデフォルトの投影法から選択することもできます。</p> <p>EPSG:4326</p> <p>EPSG:3857</p> <p>EPSE:27700</p> <p>注：3857 投影法の MapConfig は、POI ロケーションの座標値として x,y ではなく緯度/経度 (EPSG:4326) を示します。</p>
X/経度	マップに追加する X/経度列をファイルから選択します。
Y/緯度	マップに追加する Y/緯度列をファイルから選択します。
スタイル	ドロップダウンからスタイルの色とシェイプを選択します。
戻る	前の画面に戻ります。

6. **[追加]** ボタンをクリックして、選択したデータをマップに描画します。

注：選択したファイルでデータが欠落している場合は、エラー メッセージが表示されます。欠落データを確認するには、.csv ファイルをダウンロードします。



ベクタレイヤを編集する方法については、「[ベクタレイヤの編集 \(63ページ\)](#)」を参照してください。

GeoJSON および KML ファイルの追加

注：この機能は、管理者が指定する設定に基づいて使用可能になります。

Spectrum Spatial Analyst では、.GeoJSON または .kml ファイルをマップに追加できます。

ファイルを追加するには、次の手順に従います。


1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[レイヤの参照と追加]** オプション  をクリックまたはタッチしてマップにベクタ レイヤを追加します。
[ファイルの追加] ページが表示されます。
3. **[ファイルを選択]** ボタンをクリックまたはタッチして、.GeoJSON または .kml ファイルをアップロードします。
4. **[追加]** ボタンをクリックすると、選択したデータがマップにプロットされ、**[マップの凡例]** パネルにもデフォルトのファイル名で追加されます。プロットされたデータの任意のポイントををクリックすると、左側のパネルに基となる情報が表示されます。

注：選択した .GeoJSON または .kml ファイルでデータが欠落している場合は、エラーメッセージが表示されます。欠落データを確認するには、.csv ファイルをダウンロードします。


ベクタ レイヤを編集する方法については、「[ベクタ レイヤの編集 \(63ページ\)](#)」を参照してください。

ベクタ レイヤの編集

Spectrum Spatial Analyst では、マップ上に描画されたベクタ レイヤ データをクラスタ レイヤおよびヒート レイヤとして編集できます。マップ上にベクタ レイヤ データを描画した後、**[マップの凡例]** から以下のアクションを実行できます。

1. 右側のメニュー  をクリックまたはタッチして **[マップの凡例]** パネルを開きます。
2. **[マップ レイヤ]** で、編集するベクタ レイヤを選択します。

注：ベクタレイヤの凡例アイコンは、ポリゴン、ライン、ポイントなどそのレイヤのジオメトリで表されます。複数のジオメトリの組み合わせの場合、ベクタレイヤの凡例アイコンはポリゴンで表されます。

- ベクタレイヤの横の**[マップ上でオーバーレイを表示/非表示]**チェックボックス をクリックまたはタッチして、マップ上でのオーバーレイをオンまたはオフにします。
- [オーバーフロー]**  アイコンをクリックまたはタッチして、編集オプションを表示します。

オプション

説明

複数選択	<p>クリックして、マップ上のレイヤから複数のフィーチャを選択します。選択したレイヤをクリックすると選択を解除できます。完了したら <input checked="" type="checkbox"/> をクリックすると、左側のパネルに情報が表示されます。</p> <p>注：複数選択オプションは、ベクタレイヤで使用できます。ヒートレイヤまたはクラスタレイヤではサポートされていません。</p>	
詳細な結果を表示	<p>クリックまたはタッチすると、左側のパネルに結果が表示されます。</p>	
ベクタレイヤ	<p>選択すると、現在のクラスタレイヤまたはヒートレイヤをベクタレイヤに変換します。ベクタレイヤのスタイル設定には次のオプションがあります。</p> <p>注：ベクタレイヤのスタイル設定の [ポリゴン]、[ライン]、[ポイント] タブは、ベクタレイヤにそのジオメトリがある場合に使用可能になります。</p>	
	[ポリゴン] タブ	[ポリゴン] タブには次のオプションがあります。
	パターン	ドロップダウンリストからパターンを選択します。
	枠線のスタイル	枠線のスタイルを選択します。
	色	[色] の選択から色を選択して、マップ上のベクタレイヤの色を変更できます。
	枠線色	枠線の色を選択します。
	枠線の太さ	ポリゴン注釈の幅を変更します。1pt ~ 7pt で選択できます。



オプション

説明

	[ライン] タブ	[ライン] タブには次のオプションがあります。
	色	[色] の選択から色を選択して、ライン注釈の色を変更できます。
	幅	ライン注釈の幅を変更します。1pt ~ 7pt で選択できます。
	スタイル	ラインスタイルを、ドロップダウンリストから選択します。点線、実線、破線から選択できます。デフォルトのスタイルは実線です。
	[ポイント] タブ	[ポイント] タブには次のオプションがあります。
	アイコン	スタイルを、ドロップダウン リストから選択します。
	色	クリックするとカラー パレットが開き、色を選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。
クラスタ レイヤ		選択すると、現在のベクタ レイヤまたはヒートマップ レイヤをクラスタ レイヤに変換します。クラスタ レイヤのスタイル設定には次のオプションがあります。
	クラスタ間のポイント数	クラスタ間の最短距離を示すピクセル数。デフォルトは 30 です。最小値は 1 ピクセル、最大値は 100 ピクセルです。
	色	[色] の選択から色を選択して、マップ上のクラスタ レイヤの色を変更できます。
	最小クラスタ	最小クラスタのサイズです。デフォルト値は 6 ピクセルです。
	最大クラスタ	最大クラスタのサイズです。デフォルト値は 64 ピクセルです。
	クラスタ カウント値を表示	選択すると、マップ上にクラスタ カウント値を表示します。

オプション

説明

ヒートマップレイヤ	<p>選択すると、現在のクラスタレイヤまたはベクタレイヤをヒートマップレイヤに変換します。ヒートマップレイヤのスタイル設定には次のオプションがあります。</p>	
	色の变化	色の变化の基準となる数値列を選択します。
	半径サイズ	デフォルトの半径サイズは 8 ピクセルです。
	ぼかしサイズ	デフォルトのぼかしサイズは 15 ピクセルです。
ダウンロード	<p>[ダウンロード] オプションをクリックすると、マップ上に描画されたベクタデータのリストをダウンロードします。ドロップダウンリストから投影法を選択できます。使用可能な投影法は、EPSG:4326、EPSG:27700、および EPSG:3857 です。</p> <p>注：ベクタデータは .csv または GeoJSON ファイルとしてダウンロードできます。CSV 形式でダウンロードする場合、プロットされるポイントデータのポイント座標は X, Y 列として送信されます。それ以外のデータについては、基となるジオメトリのセントロイドが送信されます。</p>	
削除	<p>[削除] アイコンをクリックまたはタッチすると、ベクタレイヤをマップから削除します。</p>	
不透明度	<p>[不透明度] オプションの下の  または  アイコンをクリックまたはタッチすると、レイヤの透過性を増減します。値をクリックして手動で値を入力することもできます。チェックマークをクリックして元に戻すことができます。</p>	

5. プロットされたデータの任意のポイントをクリックして、左側のパネルで基となるマップ情報を確認できます。

9 - 主題図の操作

Spectrum Spatial Analyst では、マップ上に主題図を適用できます。主題図を作成することにより、さまざまな方法でデータを分析し、マップ上に表示できます。

1つ以上の主題図レイヤを含むマップを主題図といいます。マップレイヤに関連付けられたデータを表現するために表示スタイルが変更されたマップ上のレイヤのことです。例えば、行政界レイヤに、各行政界の総人口に関する情報が関連付けられている場合があります。このレイヤに主題図を適用することにより、行政界を人口に応じて異なる色で表示できます。

注：主題図機能は、管理者が Spatial Manager で行った設定に基づいて使用可能になります。


このセクションの構成


個別値主題図の作成	68
レンジ主題図の作成	70
サイズ可変シンボル主題図の作成	73
主題図の削除	74

個別値主題図の作成

個別値主題図では、特定のフィールドに含まれる個別値を使用してポイント、ライン、または領域を色分けします。個別値主題図では、数値と名目値の両方を使用できます。個別値主題図は、定量的な情報を示すのではなく、データ内の分類別の差異(特定の地域内の店舗の種類や区分化など)を強調したいときに役立ちます。

個別値主題図を作成するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。

2. **[主題図の作成]**  アイコンをクリックまたはタッチして、主題図を作成します。

注: クエリ データに基づく主題図も作成できます。

3. **[レイヤ名]** ドロップダウン リストで、主題図を適用するテーブルを選択します。
4. **[列]** ドロップダウン リストで、主題図を作成する列を選択します。
5. **[主題図のタイプ]** ドロップダウン リストで、**[個別値]** 主題図を選択します。

注: 個別値主題図の生成に使用できる一意の値は 50 個のみです。

6. 主題図の **[主題図名]** テキスト ボックスに新しい名前を入力するか、デフォルト名をそのまま使用します。デフォルト名は、テーブル名、列名、および視覚化名の組み合わせです。

注: 主題図名に使用できる文字数は最大 50 文字です。主題図名に特殊文字を含めることはできません。

7. **[テーマ]** ドロップダウン リストからテンプレートを選択します。テーマは **[デフォルト]** または **[白黒]** を選択できます。
選択したテーマに対応する凡例の属性が表示されます。
8. 個別値の色と属性を変更するには、**凡例** イメージをクリックまたはタップします。属性を変更するためのダイアログ ボックスが表示されます。
9. スタイルを設定する **[マップ ジオメトリ]** を選択します。マップ ジオメトリとしては、**[ポリゴン]**、**[ライン]**、または **[ポイント]** のいずれかが選択できます。デフォルトでは、最も多いマップ ジオメトリが選択されます。

注：このオプションは、選択したテーブルに複数の種類のジオメトリが含まれる場合にのみ使用できます。

属性を変更するためのダイアログ ボックスが表示されます。

表 6：凡例の属性- ポリゴン

オプション	説明
パターン	ドロップダウン リストからパターンを選択します。
枠線のスタイル	リストから境界線スタイルを選択します。
色	カラー バーをドラッグするか、カラー ボックスで色をタップして、色を選択します。
枠線色	カラー バーをドラッグするか、カラー ボックスで色をタップして、境界線の色を選択します。
枠線の太さ	境界線のサイズを選択します。
適用	変更を適用するときにクリックまたはタップします。
キャンセル	変更を保存せずに終了するときにクリックまたはタップします。

表 7：凡例の属性- ライン

オプション	説明
色	カラー バーをドラッグするか、カラー ボックスで色をタップして、ラインの色を選択します。
幅	境界線の幅を選択します。
スタイル	リストからライン スタイルを選択します。
適用	変更を適用するときにクリックまたはタップします。

オプション	説明
キャンセル	変更を保存せずに終了するときにクリックまたはタップします。

表 8 : 凡例の属性- ポイント


オプション	説明
色	カラー バーをドラッグするか、カラー ボックスで色をクリックして、ポイントの色を選択します。
サイズ	イメージアイコンのサイズを選択します。
スタイル	リストからポイント スタイルを選択します。
適用	変更を適用するときにクリックまたはタップします。
キャンセル	変更を保存せずに終了するときにクリックまたはタップします。


10. **[作成]** ボタンをクリックまたはタップします。
各主題図は、最上位のマップ項目として追加されます。主題図は、**[マップの凡例]** パネルにも一覧表示されます。

レンジ主題図の作成

レンジ主題図では、すべてのレコードをレンジにグループ化し、異なる色、シンボル、パターン、またはライン スタイルを割り当てます。例えば、世界を人口増加率別に表示するには、報告されている人口増加率に従って各国を色分けします。

レンジ主題図を作成するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。

2. **[主題図の作成]**  アイコンをクリックまたはタッチして、主題図を作成します。
3. **[レイヤ名]** ドロップダウン リストで、主題図を適用するテーブルを選択します。

注：クエリ データに基づく主題図も作成できます。
4. **[列]** ドロップダウン リストで、主題図を作成する列を選択します。

注：レンジ主題図は数値列にのみ作成できます。
5. **[主題図のタイプ]** ドロップダウン リストで、**[レンジ]** 主題図を選択します。
6. 主題図の **[主題図名]** テキスト ボックスに新しい名前を入力するか、デフォルト名をそのまま使用します。デフォルト名は、テーブル名、列名、および視覚化名の組み合わせです。

注：主題図名に使用できる文字数は最大 50 文字です。主題図名に特殊文字を含めることはできません。
7. **[メソッド]** ドロップダウン リストで、レンジを自動的に作成するためのメソッドを選択します。

次のメソッドが選択できます。

 - **レコード数均等** - 各レンジのレコード数が同じになります。
 - **レンジ幅均等** - 同じサイズのレンジにレコードが振り分けられます。
 - **標準偏差** - 値の中間値をはさんで中間のレンジが配置され、その前後のレンジは中間値から 1 標準偏差上または下になります。
8. **[間隔]** で、範囲を選択します。範囲は 2 ~ 16 です。
9. **[開始色]** ボックスで、レンジの最初の色を選択します。最初の色は、すべてのマップ ジオメトリで同一です。
10. **[終了色]** ボックスで、レンジの最後の色を選択します。最後の色は、すべてのマップ ジオメトリで同一です。
11. スタイルを設定する **[マップ ジオメトリ]** を選択します。マップ ジオメトリとしては、**[ポリゴン]**、**[ライン]**、または **[ポイント]** のいずれかが選択できます。デフォルトでは、最も多いマップ ジオメトリが選択されます。

注：このオプションは、選択したテーブルに複数の種類のジオメトリが含まれる場合にのみ使用できます。

表 9 : マップ ジオメトリ オプション



オプション	説明
枠線のスタイル	リストから境界線スタイルを選択します。 注：このオプションは、ポリゴンおよびラインジオメトリでのみ使用できません。
枠線色	カラーパレットから境界線の色を選択します。 注：このオプションは、ポリゴンジオメトリでのみ使用できます。
枠線の太さ	境界線のサイズを選択します。 注：このオプションは、ポリゴンおよびラインジオメトリでのみ使用できません。
パターン	リストからパターンを選択します。 注：このオプションは、ポリゴンジオメトリでのみ使用できます。
スタイル	ドロップダウンリストからイメージアイコンを選択します。 注：このオプションは、ポイントジオメトリでのみ使用できます。
サイズ	イメージアイコンのサイズを選択します。 注：このオプションは、ポイントジオメトリでのみ使用できます。

12. 凡例のレンジをプレビュー表示するには、**[凡例をプレビュー]** ボタンをクリックまたはタップします。
13. **[作成]** ボタンをクリックまたはタップします。
レイヤ名のテキストボックスが表示されます。各主題図は、最上位のマップ項目として追加されます。主題図は、**[マップの凡例]** パネルにも一覧表示されます。
注：現在のページを更新したり、マッププロジェクトを変更したりすると、主題図は失われます。

サイズ可変シンボル主題図の作成

サイズ可変シンボル主題図では、シンボルを使用して異なる値を表します。シンボルのサイズはフィールド内の値に応じて変化します。例えば、都市別の住宅販売戸数を表すときにサイズ可変シンボルを使用します。

サイズ可変シンボル主題図を作成するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[主題図の作成]**  アイコンをクリックまたはタッチして、主題図を作成します。
3. **[テーブル]** ドロップダウンリストで、主題図を適用するテーブルを選択します。
注：クエリ データに基づく主題図も作成できます。
4. **[列]** ドロップダウンリストで、主題図を作成する列を選択します。
5. **[主題図のタイプ]** ドロップダウンリストで、**[サイズ可変シンボル]** 主題図を選択します。
注：サイズ可変シンボル主題図は数値列にのみ作成できます。
6. 主題図の **[主題図名]** テキスト ボックスに新しい名前を入力するか、デフォルト名をそのまま使用します。デフォルト名は、テーブル名、列名、および視覚化名の組み合わせです。
注：主題図名に使用できる文字数は最大 50 文字です。主題図名に特殊文字を含めることはできません。
7. **[スタイル]** ドロップダウン リストで、任意のシンボルを選択します。
8. **[正の値]** カラー ボックスから、正のデータ値のシンボルを表示する際の色を選択します。
9. **[サイズ]** で、サイズを選択します。
10. **[最大値]** には、選択した列に含まれる最大絶対値が表示されます。
11. **[相対サイズの基準]** では、定数、平方根、または対数を基にしたサイズを選択できます。
12. 凡例のレンジをプレビュー表示するには、**[凡例をプレビュー]** ボタンをクリックまたはタップします。
13. 主題図の **[主題図名]** テキスト ボックスに新しい名前を入力するか、デフォルト名をそのまま使用します。デフォルト名は、テーブル名、列名、および視覚化名の組み合わせです。

注：主題図名に使用できる文字数は最大 50 文字です。主題図名に特殊文字を含めることはできません。




14. **【作成】** ボタンをクリックまたはタップします。
レイヤ名のテキスト ボックスが表示されます。各主題図は、最上位のマップ項目として追加されます。主題図は、**【マップの凡例】** パネルにも一覧表示されます。

注：現在のページを更新したり、マップ プロジェクトを変更したりすると、主題図は失われます。

主題図の削除

作成した主題図は、簡単に削除できます。主題図を作成すると、主題図の凡例が **【マップの凡例】** に自動的に一覧表示されます。凡例には、マップで使用されている色、シンボル、スタイルが表示されます。

主題図を削除するには、次の手順に従います。

1. 右側のメニュー  をクリックまたはタッチして **【マップの凡例】** パネルを開きます。
2. マップの凡例で、目的のマップ オーバーレイの横の **【マップ上でオーバーレイを表示/非表示】** チェックボックスをクリックまたはタッチして、主題図オーバーレイをオンにします。
3. **【オーバーフロー】**  アイコンをクリックまたはタッチして、編集オプションを表示します。
4. **【削除】**  アイコンをクリックまたはタッチして、主題図を削除します。
主題図がマップおよび **【マップの凡例】** から削除されます。

10 - 注釈の操作

注：Spectrum Spatial Analyst で使用できる機能は、各組織の管理者によって管理されます。ユーザによっては、これらのツールを使用できない場合があります。



Spectrum Spatial Analyst にはさまざまなタイプの注釈フィーチャがあり、これらを使用してマップ上に描画することができます。以下のトピックでは、注釈の操作について説明します。


このセクションの構成

ポイントの描画	76
ラインの描画	76
円を描画	77
ポリゴンの描画	78
長方形の描画	79
同心リングの描画	80
楕円の描画	81
セクターの描画	82
走行時間ポリゴンの描画	82
走行距離ポリゴンの描画	83
テキスト注釈	84
注釈のまたは分割	85
注釈のインポート	86
注釈の編集	87
注釈のプロパティ	89
単一または複数の注釈内のデータの集計	98
注釈のスタイル設定	101

ポイントの描画

マップにポイントの注釈を追加するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[注釈の作成]** で、**[ポイント]**  注釈を選択します。注釈を描画せずに終了するには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。
3. マップ上でポイントを追加する場所を 1 回クリックまたはタップします。

ポイント注釈がマップに追加され、**[マップの凡例]**  パネルの **[注釈]** 見出しの下にもデフォルトの名前で表示されます。

ポイント注釈の編集の詳細については、「[注釈の編集 \(87ページ\)](#)」を参照してください。

ポイント注釈のプロパティの詳細については、「[ポイント注釈のプロパティ](#)」を参照してください。

ポイント注釈のスタイル設定の詳細については、「[注釈のスタイル設定](#)」を参照してください。

関連タスク


[注釈の編集 \(87ページ\)](#)


[注釈のプロパティ \(89ページ\)](#)


[注釈のスタイル設定 \(101ページ\)](#)

ラインの描画

ラインを描画するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。

2. **[注釈の作成]** リストで、**[ライン]**  注釈を選択します。注釈を描画せずに終了するには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。
3. マップをクリックまたはタップして最初のポイントを指定します。
4. もう一度クリックまたはタップして 2 番目のポイントを指定します。
5. マップのラインに追加するポイントの数に応じて上記の手順を繰り返します。
6. 2回クリックまたはタップして最後のポイントを追加します。ライン注釈がマップ上に描画さ

れ、**[マップの凡例]**  パネルの **[注釈]** 見出しの下にもデフォルトの名前で表示されます。ラインの描画中は長さも表示されます。

注： 描画中にマップをクリックまたはタップして指をドラッグすると、マップを移動できます。この操作は、現在のマップビューの端を越えて描画する際に便利です。マップに追加するには、ラインに 2 つ以上のポイントが含まれている必要があります。

注： マップ上で **Shift** キーを押しながらライン注釈を描画すると、フリーハンドでラインを描画できます。

ライン注釈の編集の詳細については、「[注釈の編集 \(87ページ\)](#)」を参照してください。

ライン注釈のプロパティの詳細については、「[ライン注釈のプロパティ](#)」を参照してください。

ライン注釈のスタイル設定の詳細については、「[注釈のスタイル設定](#)」を参照してください。

関連タスク


[注釈の編集 \(87ページ\)](#)


[注釈のプロパティ \(89ページ\)](#)

[注釈のスタイル設定 \(101ページ\)](#)

円を描画

円を描画するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。

2. **【注釈の作成】** リストで、**【円】**  を選択します。注釈を描画せずに終了するには、**【キャンセル】** ボタンをクリックします。
3. マップ上で円の中心にする場所をクリックまたはタップしてから、マップ上の別のポイントをタップして円を描画します。

円注釈がマップ上に描画され、**【マップの凡例】**  パネルの **【注釈】** 見出しの下にもデフォルトの名前で表示されます。

注：円の描画中は円の半径が表示されます。

円注釈の編集の詳細については、「[注釈の編集](#)（87ページ）」を参照してください。

円注釈のプロパティの詳細については、「[円注釈のプロパティ](#)」を参照してください。

円注釈のスタイル設定の詳細については、「[注釈のスタイル設定](#)」を参照してください。

関連タスク



[注釈の編集](#)（87ページ）


[注釈のプロパティ](#)（89ページ）

[注釈のスタイル設定](#)（101ページ）

ポリゴンの描画

ポリゴンを描画するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **【追加】**  アイコンをクリックまたはタッチして **【追加】** パネルを開きます。
2. **【注釈の作成】** リストで、**【ポリゴン】**  を選択します。注釈を描画せずに終了するには、**【キャンセル】** ボタンをクリックします。
3. マップを 1 回クリックまたはタップして最初のポイントを開始します。
4. マップの別のポイントをクリックまたはタップしてポリゴンを描画します。
5. 追加したいポイント数に応じて上記の手順を繰り返します。
6. 2 回クリックまたはタップして最後のポイントを追加します。

ポリゴン注釈がマップ上に描画され、**【マップの凡例】**  パネルの **【注釈】** 見出しの下にもデフォルト名で表示されます。

注： 描画中にマップをクリックまたはタップして指をドラッグすると、マップを移動できます。この操作は、現在のマップビューの端を越えて描画する際に便利です。ポリゴンをマップに追加するには3ポイント以上を使用する必要があります。

注： マップ上で **Shift** キーを押しながらポリゴン注釈を描画すると、フリーハンドでポリゴンを描画できます。

ポリゴン注釈の編集の詳細については、「[注釈の編集 \(87ページ\)](#)」を参照してください。

ポリゴン注釈のプロパティの詳細については、「[ポリゴン注釈のプロパティ](#)」を参照してください。

ポリゴン注釈のスタイル設定の詳細については、「[注釈のスタイル設定](#)」を参照してください。

関連タスク



[注釈の編集 \(87ページ\)](#)


[注釈のプロパティ \(89ページ\)](#)

[注釈のスタイル設定 \(101ページ\)](#)

長方形の描画

長方形を描画するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **【追加】**  アイコンをクリックまたはタッチして **【追加】** パネルを開きます。
2. **【注釈の作成】** リストで、**【長方形】**  を選択します。注釈を描画せずに終了するには、**【キャンセル】** ボタンをクリックします。
3. マップ上で長方形の一角にする場所をクリックまたはタップしてから、マップ上の別のポイントをクリックまたはタップして長方形を描画します。

長方形注釈がマップ上に描画され、**【マップの凡例】**  パネルの **【注釈】** 見出しの下にもデフォルトの名前で表示されます。

長方形注釈の編集の詳細については、「[注釈の編集 \(87ページ\)](#)」を参照してください。

長方形注釈のプロパティの詳細については、「[長方形注釈のプロパティ](#)」を参照してください。

長方形注釈のスタイル設定の詳細については、「[注釈のスタイル設定](#)」を参照してください。

関連タスク



[注釈の編集 \(87ページ\)](#)


[注釈のプロパティ \(89ページ\)](#)

[注釈のスタイル設定 \(101ページ\)](#)

同心リングの描画

マップ上に同心リングを描画するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[注釈の作成]** リストで、**[同心リング]**  を選択します。注釈を描画せずに終了するには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。
3. マップ上で同心リングの中心にする場所をクリックまたはタップしてから、マップ上の別のポイントをタップして同心リングを描画します。描画した円の半径が、リングの最初の外側半径になります。

同心リング注釈がマップ上に描画され、**[マップの凡例]**  パネルの **[注釈]** 見出しの下にもデフォルトの名前で表示されます。

注：同心リングの描画中は円の半径が表示されます。

詳細については、「[注釈の編集 \(87ページ\)](#)」を参照してください。

同心リング注釈のプロパティの詳細については、「[同心リング注釈のプロパティ](#)」を参照してください。

同心リング注釈のスタイル設定の詳細については、「[注釈のスタイル設定](#)」を参照してください。

関連タスク



[注釈の編集 \(87ページ\)](#)

[注釈のプロパティ](#) (89ページ)

[注釈のスタイル設定](#) (101ページ)

楕円の描画

楕円を描画するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[注釈の作成]** リストで、**[楕円]**  を選択します。注釈を描画せずに終了するには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。
3. マップ上で楕円の始点にする場所をクリックまたはタップしてから、マップ上の別のポイントをタップして楕円を描画します。

楕円の注釈がマップ上に描画され、**[マップの凡例]**  パネルの **[注釈]** 見出しの下にもデフォルトの名前で表示されます。

注：楕円の描画中は半径が表示されます。デフォルトでは、短径が長径の半分の長さになります。

楕円注釈の編集の詳細については、「[注釈の編集](#) (87ページ)」を参照してください。

楕円注釈のプロパティの詳細については、「[楕円注釈のプロパティ](#)」を参照してください。

楕円注釈のスタイル設定の詳細については、「[注釈のスタイル設定](#)」を参照してください。

関連タスク



[注釈の編集](#) (87ページ)


[注釈のプロパティ](#) (89ページ)

[注釈のスタイル設定](#) (101ページ)

セクターの描画

セクターを描画するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[注釈の作成]** リストで、**[セクター]**  を選択します。注釈を描画せずに終了するには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。
3. マップ上でセクターの始点にする場所をクリックまたはタップしてから、マップ上の別のポイントをタップしてセクターを描画します。

セクター注釈がマップ上に描画され、**[マップの凡例]**  パネルの **[注釈]** 見出しの下にもデフォルトの名前で表示されます。

注：セクターの描画中は半径が表示されます。

セクター注釈の編集の詳細については、「[注釈の編集](#)（87ページ）」を参照してください。

セクター注釈のプロパティの詳細については、「[セクター注釈のプロパティ](#)」を参照してください。

セクター注釈のスタイル設定の詳細については、「[注釈のスタイル設定](#)」を参照してください。

関連タスク

[注釈の編集](#)（87ページ）



[注釈のプロパティ](#)（89ページ）


[注釈のスタイル設定](#)（101ページ）

走行時間ポリゴンの描画

注：この機能は管理者によって付与された権限に基づき使用可能です。

走行時間ポリゴンを描画するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[注釈の作成]** リストで、**[走行時間ポリゴン]**  を選択します。注釈を描画せずに終了するには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。
3. マップ上で中心ポイントを追加する場所を 1 回クリックまたはタップします。

走行時間ポリゴン注釈がマップに追加され、**[マップの凡例]**  パネルの **[注釈]** 見出しの下にもデフォルトの名前で表示されます。

詳細については、「[注釈の編集 \(87ページ\)](#)」を参照してください。

走行時間ポリゴン注釈のプロパティの詳細については、「[走行時間ポリゴン注釈のプロパティ](#)」を参照してください。

走行時間ポリゴン注釈のスタイル設定の詳細については、「[注釈のスタイル設定](#)」を参照してください。

関連タスク

[注釈の編集 \(87ページ\)](#)



[注釈のプロパティ \(89ページ\)](#)


[注釈のスタイル設定 \(101ページ\)](#)

走行距離ポリゴンの描画

注： この機能は管理者によって付与された権限に基づき使用可能です。

走行距離ポリゴンを描画するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[注釈の作成]** リストで、**[走行距離ポリゴン]**  を選択します。注釈を描画せずに終了するには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。
3. マップ上で中心ポイントを追加する場所を 1 回クリックまたはタップします。

走行距離ポリゴン注釈がマップに追加され、**[マップの凡例]**  パネルの **[注釈]** 見出しの下にデフォルトの名前で表示されます。

詳細については、「[注釈の編集 \(87ページ\)](#)」を参照してください。

走行距離ポリゴン注釈のプロパティの詳細については、「[走行時間/距離ポリゴン注釈のプロパティ](#)」を参照してください。

走行距離ポリゴン注釈のスタイル設定の詳細については、「[注釈のスタイル設定](#)」を参照してください。

関連タスク



[注釈の編集 \(87ページ\)](#)

[注釈のプロパティ \(89ページ\)](#)

[注釈のスタイル設定 \(101ページ\)](#)

テキスト注釈

マップにテキスト注釈を追加するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[注釈の作成]** リストで、**[テキスト]**  を選択します。注釈を描画せずに終了するには、**[キャンセル]** ボタンをクリックします。
3. マップを1回クリックまたはタップして、テキストのエントリポイントを登録します。**[テキスト注釈]** ダイアログボックスが表示されます。
4. 追加するテキストを入力し、**[完了]** をクリックします。

テキストがマップに追加され、**[マップの凡例]**  パネルの **[注釈]** 見出しの下にもデフォルトの名前で表示されます。

注：テキスト注釈に対してクエリを実行することはできません。

テキスト注釈の編集の詳細については、「[注釈の編集 \(87ページ\)](#)」を参照してください。

テキスト注釈のプロパティの詳細については、「[テキスト注釈のプロパティ](#)」を参照してください。

テキスト注釈のスタイル設定の詳細については、「[注釈のスタイル設定](#)」を参照してください。

関連タスク

[注釈の編集](#) (87ページ)

[注釈のプロパティ](#) (89ページ)



[注釈のスタイル設定](#) (101ページ)


注釈のまたは分割

結合または分割は、ユーザがポリゴン注釈を選択して結合、交差、差し引き、分割といった操作を実行できる機能です。

注： 結合または分割機能は、マップ上に2つ以上のポリゴン注釈が描画されている場合にのみ有効になります。







注釈を結合または分割するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[注釈の作成]** リストで、注釈 (**[円]**  など) を選択します。
3. 円の中心にする場所をクリックまたはタップしてから、マップ上の別のポイントをタップして円を描画します。
4. 上記の手順を繰り返してマップ上に円注釈をもう1つ描画します。これにより、マップ上に2つの注釈が表示されます。

5. 注釈の **[結合または分割]**  ボタンをクリックします。マップ上に結合または分割ツールバーが表示されます。



6. 最初の円注釈と2つ目の円注釈を1つずつクリックして選択します。
7. 上記の結合または分割ツールバーで使用できるオプションのいずれかを選択します。結合または分割ツールバーで使用できるオプションを以下に示します。

オプション	説明
	Merge
	A と B の交差部分を抽出
	A と B の差分を抽出
	A と B を分割
	A 引く B
	B 引く A

8. マップ上に結合または分割操作のプレビューを表示できます。
9. チェック ボタンをクリックして結合または分割操作を完了します。
新しいポリゴンが [マップの凡例] パネルに追加されます。


ポリゴン注釈の編集の詳細については、「[注釈の編集 \(87ページ\)](#)」を参照してください。

ポリゴン注釈のプロパティの詳細については、「[ポリゴン注釈のプロパティ](#)」を参照してください。

ポリゴン注釈のスタイル設定の詳細については、「[注釈のスタイル設定](#)」を参照してください。

注釈のインポート

マップにテキスト注釈を追加するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の [追加]  アイコンをクリックまたはタッチして [追加] パネルを開きます。



2. **【注釈の作成】** リストの下の **【注釈のインポート】** ボタンにタッチして、デバイス内の Google KML ファイルから新しい注釈のセットをインポートします。
【KML ファイルのインポート】ダイアログ ボックスが表示されます。
3. **【ファイルを選択】** ボタンにタッチして、インポートする KML ファイルを選択します。
4. **【適用】** をタップしてファイルをインポートします。
インポートされた注釈がマップ上に描画され、**【マップの凡例】** パネルにも表示されます。

関連タスク

[注釈の編集 \(87ページ\)](#)

注釈の編集

個々の注釈のプロパティを編集できます。注釈のプロパティを編集するには、次の手順に従います。

1. 右側のメニュー  をクリックまたはタッチして **【マップの凡例】** パネルを開きます。
2. **【注釈】** リストで、編集する注釈を選択します。
3. **【注釈】** の横の **【マップ上でオーバーレイを表示\非表示】** チェックボックス をクリックまたはタッチして、マップ上でのオーバーレイをオンまたはオフにします。
4. **【オーバーフロー】**  アイコンをクリックまたはタッチして、編集オプションを表示します。

注：場合により、編集オプションの一部が表示されないことがあります。プロパティオプションは、選択された注釈に基づき表示されます。


プロパティ	説明
注釈グループ	これがメインの注釈グループです。使用できるオプションを以下に示します。
選択対象内のクエリ	選択した注釈に対してクエリを実行できます。 注：テキスト注釈に対してクエリを実行することはできません。
選択中の注釈を削除	選択した注釈を削除できます。

プロパティ	説明
選択を KML として エクスポート	選択した注釈を KML ファイルにエクスポートできます。 注：テキスト注釈のエクスポートはサポートされていません。
集計	選択した注釈に含まれるデータ、注釈と交差するデータ、または選択した注釈の境界上にあるデータを集計します。詳細については、「 データの集計 」を参照してください。
不透明度	[不透明度] オプションの横の + または - アイコンにタッチして、レイヤの透過性を増減します。
注釈レイヤ	これはマップ上に作成した注釈のリストです。例えば、ポイント、ライン、円、長方形、ポリゴン、およびテキスト注釈が表示されます。使用できるオプションを以下に示します。
編集	注釈のシェイプを編集できます。注釈を変更するには、タップし、ドラッグして解除します。頂点を削除するには、その上をダブルタップします。注釈の選択を終了するには、 [終了] ボタンをクリックします。 注：この機能は、ライン、ポリゴン、およびテキスト注釈でのみ使用できます。
クエリ範囲	選択した注釈に対してクエリを実行できます。 注：テキスト注釈に対してクエリを実行することはできません。
マップ情報	タッチすると、下の注釈と交差する、表示可能なすべてのマップレイヤのフィーチャ情報が左側のパネルに表示されます。 注：この機能は Spectrum Business マップでのみ使用できません。
移動	注釈を移動するには、注釈にタッチして配置を変更します。

プロパティ	説明
ズーム対象範囲	選択した注釈をズームできます。
名前の変更	タッチして注釈の名前を変更します。
集計	選択した注釈に含まれるデータ、注釈と交差するデータ、または選択した注釈の境界上にあるデータを集計します。詳細については、「 データの集計 」を参照してください。
削除	選択した注釈を削除します。

注釈のプロパティ

個々の注釈のプロパティを表示または編集できます。注釈のプロパティを表示または編集するには、次の手順に従います。

1. 右側のメニュー  をクリックまたはタッチして **[マップの凡例]** パネルを開きます。
2. **[マップの凡例]** で、注釈をクリックまたはタッチしてプロパティを開きます。注釈にもう一度タッチすると、プロパティ ダイアログ ボックスが閉じます。

注：場合により、プロパティ オプションの一部が表示されないことがあります。プロパティ オプションは、選択された注釈に基づき表示されます。

注：単位は、プロジェクトで設定されている測定体系に従って表示されます。例を次に示します。

- **ライン**: 長さが 1000 メートルを超える場合はキロメートルに、5280 フィートを超える場合はマイルに、単位がそれぞれ変換されます。
- **円/セクター**: 半径が 1000 メートルを超える場合、単位はキロメートルに変換されます。半径が 5280 フィートを超える場合、単位はマイルに変換されます。
- **ポリゴン/長方形**: 面積が 1000*1000 平方メートルを超える場合、単位は平方キロメートルに変換されます。面積が 5280 * 5280 平方フィートを超える場合、単位は平方マイルに変換されます。

- **楕円:** 長径が 1000 メートルを超える場合、単位はキロメートルに変換されます。長径が 5280 フィートを超える場合、単位はマイルに変換されます。
- **同心円:** 最内円の半径が 1000 メートルを超える場合、単位はキロメートルに変換されます。この半径が 5280 フィートを超える場合、単位はマイルに変換されます。
- **走行距離:** 最内部の移動コストが 1000 メートルを超える場合、単位はキロメートルに変換されます。この移動コストが 5280 フィートを超える場合、単位はマイルに変換されます。

表 10 : ポイント注釈

プロパティ	説明
単位	面積、長さ、周囲長など、選択された注釈の測定値を表示します。多様な測定単位をドロップダウンリストから選択できます。測定単位として、メートル、フィート、ヤード、キロメートル、マイル、エーカー、ヘクタールがサポートされています。デフォルトの測定単位が、すべての注釈に対する設定済みのマップ単位となります。
中心点 X	既存の注釈を新しい位置に再配置するための x の値を入力します。
中心点 Y	既存の注釈を新しい位置に再配置するための y の値を入力します。
バッファの追加	選択された注釈に適用するバッファ値を入力します。
適用	注釈のプロパティに変更を適用するときにタップします。
キャンセル	キャンセルしてプロパティ ダイアログ ボックスを閉じるときにタップします。

表 11 : ライン注釈

プロパティ	説明
単位	面積、長さ、周囲長など、選択された注釈の測定値を表示します。多様な測定単位をドロップダウンリストから選択できます。測定単位として、メートル、フィート、ヤード、キロメートル、マイル、エーカー、ヘクタールがサポートされています。デフォルトの測定単位が、すべての注釈に対する設定済みのマップ単位となります。
中心点 X	既存の注釈を新しい位置に再配置するための x の値を入力します。
中心点 Y	既存の注釈を新しい位置に再配置するための y の値を入力します。
長さ	ライン注釈の長さを表示します。
バッファの追加	選択された注釈に適用するバッファ値を入力します。
適用	注釈のプロパティに変更を適用するときにタップします。
キャンセル	キャンセルしてプロパティ ダイアログ ボックスを閉じるときにタップします。

表 12 : 円注釈

プロパティ	説明
単位	面積、長さ、周囲長など、選択された注釈の測定値を表示します。多様な測定単位をドロップダウンリストから選択できます。測定単位として、メートル、フィート、ヤード、キロメートル、マイル、エーカー、ヘクタールがサポートされています。デフォルトの測定単位が、すべての注釈に対する設定済みのマップ単位となります。
中心点 X	既存の注釈を新しい位置に再配置するための x の値を入力します。

プロパティ	説明
中心点 Y	既存の注釈を新しい位置に再配置するための y の値を入力します。
半径	半径を表示します。
周囲長	選択した単位で周囲長を表示します。
面積	選択した単位で面積を表示します。
適用	注釈のプロパティに変更を適用するときにタップします。
キャンセル	キャンセルしてプロパティ ダイアログ ボックスを閉じるときにタップします。

表 13 : ポリゴン注釈

プロパティ	説明
単位	面積、長さ、周囲長など、選択された注釈の測定値を表示します。多様な測定単位をドロップダウンリストから選択できます。測定単位として、メートル、フィート、ヤード、キロメートル、マイル、エーカー、ヘクタールがサポートされています。デフォルトの測定単位が、すべての注釈に対する設定済みのマップ単位となります。
中心点 X	既存の注釈を新しい位置に再配置するための x の値を入力します。
中心点 Y	既存の注釈を新しい位置に再配置するための y の値を入力します。
周囲長	選択した単位で周囲長を表示します。
面積	選択した単位で面積を表示します。
バッファの追加	選択された注釈に適用するバッファ値を入力します。
適用	注釈のプロパティに変更を適用するときにタップします。
キャンセル	キャンセルしてプロパティ ダイアログ ボックスを閉じるときにタップします。

表 14 : 長方形注釈

プロパティ	説明
単位	面積、長さ、周囲長など、選択された注釈の測定値を表示します。多様な測定単位をドロップダウン リストから選択できます。測定単位として、メートル、フィート、ヤード、キロメートル、マイル、エーカー、ヘクタールがサポートされています。デフォルトの測定単位が、すべての注釈に対する設定済みのマップ単位となります。
中心点 X	既存の注釈を新しい位置に再配置するための x の値を入力します。
中心点 Y	既存の注釈を新しい位置に再配置するための y の値を入力します。
周囲長	選択した単位で周囲長を表示します。
面積	選択した単位で面積を表示します。
回転	選択された注釈に適用する回転の値を入力します。
バッファの追加	選択された注釈に適用するバッファ値を入力します。
適用	注釈のプロパティに変更を適用するときにタップします。
キャンセル	キャンセルしてプロパティ ダイアログ ボックスを閉じるときにタップします。

表 15 : 同心リング注釈

プロパティ	説明
単位	面積、長さ、周囲長など、選択された注釈の測定値を表示します。多様な測定単位をドロップダウン リストから選択できます。測定単位として、メートル、フィート、ヤード、キロメートル、マイル、エーカー、ヘクタールがサポートされています。デフォルトの測定単位が、すべての注釈に対する設定済みのマップ単位となります。
中心点 X	既存の注釈を新しい位置に再配置するための x の値を入力します。

プロパティ	説明
中心点 Y	既存の注釈を新しい位置に再配置するための y の値を入力します。
リングの数	リング総数を入力します。入力できるリング数は 2 から 5 までです。
等距離	タップして、リングを等距離で作成します。
カスタム	タップして、リングを任意の距離で作成します。リング総数に応じた [半径] テキスト ボックスが表示されます。最後の [半径] テキスト ボックスは編集できません。そこには、[最外半径] テキスト ボックスに入力した値が表示されます。
半径	半径を表示します。
適用	注釈のプロパティに変更を適用するときにタップします。
キャンセル	キャンセルしてプロパティ ダイアログ ボックスを閉じるときにタップします。

表 16 : 楕円注釈

プロパティ	説明
単位	面積、長さ、周囲長など、選択された注釈の測定値を表示します。多様な測定単位をドロップダウン リストから選択できます。測定単位として、メートル、フィート、ヤード、キロメートル、マイル、エーカー、ヘクタールがサポートされています。デフォルトの測定単位が、すべての注釈に対する設定済みのマップ単位となります。
周囲長	選択した単位で周囲長を表示します。
面積	選択した単位で面積を表示します。
中心点 X	既存の注釈を新しい位置に再配置するための x の値を入力します。

プロパティ	説明
中心点 Y	既存の注釈を新しい位置に再配置するための y の値を入力します。
長径	楕円の直径（中心を通る直線）が表示されます。長径は最も長い直径です。
短径	楕円の直径（中心を通る直線）が表示されます。短径は最も短い直径です。
回転	選択された注釈に適用する中心からの回転の値を入力します。
適用	注釈のプロパティに変更を適用するときにタップします。
キャンセル	キャンセルしてプロパティ ダイアログ ボックスを閉じるときにタップします。

表 17 : セクター注釈

プロパティ	説明
単位	面積、長さ、周囲長など、選択された注釈の測定値を表示します。多様な測定単位をドロップダウンリストから選択できます。測定単位として、メートル、フィート、ヤード、キロメートル、マイル、エーカー、ヘクタールがサポートされています。デフォルトの測定単位が、すべての注釈に対する設定済みのマップ単位となります。
周囲長	選択した単位で周囲長を表示します。
面積	選択した単位で面積を表示します。
中心点 X	既存の注釈を新しい位置に再配置するための x の値を入力します。
中心点 Y	既存の注釈を新しい位置に再配置するための y の値を入力します。
弧半径	円弧の半径が表示されます。
弧長	円弧の範囲が表示されます。デフォルトでは、円弧の範囲は30度です。
セクタ方向	正のX軸と、原点と円弧の中間点とを結ぶ直線との間の角度を表示します。0~359 度の値を指定できます。
適用	注釈のプロパティに変更を適用するときにタップします。

プロパティ	説明
キャンセル	キャンセルしてプロパティ ダイアログ ボックスを閉じるときにタップします。

表 18 : テキスト注釈

プロパティ	説明
中心点 X	既存の注釈を新しい位置に再配置するための x の値を入力します。
中心点 Y	既存の注釈を新しい位置に再配置するための y の値を入力します。
回転	選択された注釈に適用する中心からの回転の値を入力します。
適用	注釈のプロパティに変更を適用するときにタップします。
キャンセル	キャンセルしてプロパティ ダイアログ ボックスを閉じるときにタップします。

表 19 : 走行時間/距離注釈

プロパティ	説明
中心点 X	既存の注釈を新しい位置に再配置するための x の値を入力します。
中心点 Y	既存の注釈を新しい位置に再配置するための y の値を入力します。
ルーティング データベース	使用するデータベース (歩行者、ドライブなど) を選択します。
拡大縮小レベルのリングの数	リング総数を入力します。デフォルトでは、1 個のリングが作成されます。リング数は最大 5 までの範囲で追加できます。

プロパティ

説明



移動時間	<p>[移動時間]を選択した場合、さらに次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [時間単位]- 時間を返すときの単位。既定値は min (分) です。使用可能な値: min (分)、s (秒)、h (時)。 • [速度履歴プロファイル]- ルーティング計算において、トラフィック速度履歴を使用するかどうかを指定します。これらの速度は、1日のうちの異なるタイムバケットに基づきます。この機能を使用するには、トラフィック速度履歴がデータに含まれている必要があります。各国/地域のデータに対するバケット定義は同じです。バケット値に対する速度は異なる場合があります。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • [なし]- デフォルト値。計算において、トラフィックデータ履歴は使用しません。代わりに速度の平均値を使用します。 • [午前ピーク]- 午前のピーク速度でルートを計算します。午前ピークのタイムバケットは、1日のうちの 07:00 ~ 10:00 です。 • [午後ピーク]- 午後のピーク速度でルートを計算します。午後ピークのタイムバケットは、1日のうちの 16:00 ~ 19:00 です。 • [オフピーク]- オフピーク (日中) 速度でルートを計算します。オフピークのタイムバケットは、1日のうちの 10:00 ~ 16:00 です。 • [夜間]- 夜間速度でルートを計算します。夜間のタイムバケットは、1日のうちの 22:00 ~ 04:00 です。 • [時間]- 時間を入力します。
移動距離	<p>[移動距離]を選択した場合、さらに次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [距離単位]- 距離を返すときの単位。既定値は m (メートル) です。使用可能な値: m (メートル)、km (キロメートル)、yd (ヤード)、ft (フィート)、mi (マイル)。 • [距離]- 距離を入力します。
適用	注釈のプロパティに変更を適用するときにクリックまたはタップします。
キャンセル	キャンセルしてプロパティ ダイアログ ボックスを閉じるときにクリックまたはタップします。

関連タスク

注釈のスタイル設定 (101ページ)

単一または複数の注釈内のデータの集計

単一の注釈または複数の注釈内のデータを集計できます。選択された注釈内に含まれる数値データの合計、平均、最小値、最大値を表示します。選択された注釈に対する集計データを取得するには

1. 右側のメニュー  をクリックまたはタッチして **【マップの凡例】** パネルを開きます。
2. **【注釈】** リストで、データを集計する **【注釈】** を選択します。例えば、ポリゴンです。
3. **【注釈】** リストの横の **【オーバーフロー】**  アイコンをクリックまたはタッチして、編集オプションを表示します。

注：選択した注釈の横の **【オーバーフロー】** アイコンから個々にデータを集計することもできます。

4. **【集計】** オプションをクリックします。左側のパネルに、選択した注釈の集計データが表示されます。

オプション

説明

テーブル

データを集計するテーブルを選択します。




条件

データの取得元について、以下のオプションのいずれかを選択します。

- **【注釈と交差】** - 注釈の境界または内容の上にあるか交差しているフィーチャ。

注：ライン注釈とポイント注釈は、注釈と交差オプションでのみ集計できます。その他のオプションは、ライン注釈とポイント注釈では利用できません。

- **【注釈に完全に含まれる】** - 注釈内にあるもののみ。
- **【注釈内にある割合に比例】** - フィーチャが注釈と交差している場合、データ集計を計算する際に注釈の中にある領域のみを考慮します。

オプション	説明
	<p>注：[注釈内にある割合に比例] オプションは、ポリゴンまたは選択した注釈の組み合わせがポリゴンのみの場合にのみ利用可能です。デフォルトの選択したオプションは、最も多いジオメトリに基づきます。</p>
集計	<p>[集計] ボタンをクリックまたはタッチすると、選択された注釈内に含まれる数値データの合計、平均、最小値、最大値を表示します。</p> <p>注：選択したテーブルに数値列がない場合は、集計ボタンが無効になり、ユーザに情報メッセージが表示されます。</p> <p>選択エリア内のフィーチャの総数が上部に表示されます。数値列を持たない場合は、集計は無効になります。</p>
	<p>クリックまたはタッチしてテーブルとオプションの場所を編集し、[集計] ボタンをクリックして新しい結果を取得します。</p>
	<p>[オーバーフロー] メニューをクリックまたはタッチして、他のオプションを表示します。次のことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> データのエクスポート - [CSVとしてエクスポート]  ボタンをクリックまたはタッチして、すべてのデータを CSV ファイルにエクスポートします。 オンまたはオフにすると、テーブルの列を表示または非表示にできます。デフォルトでは、すべてのテーブル列が表示されます。
合計	<p>各テーブル列の数値データに対応する値の合計を表示します。</p>
平均	<p>各テーブル列の数値データに対応する値の平均を表示します。</p>
最小	<p>各テーブル列の数値データに対応する値の最小値を表示します。</p>
最大	<p>各テーブル列の数値データに対応する値の最大値を表示します。</p>

オプション

説明

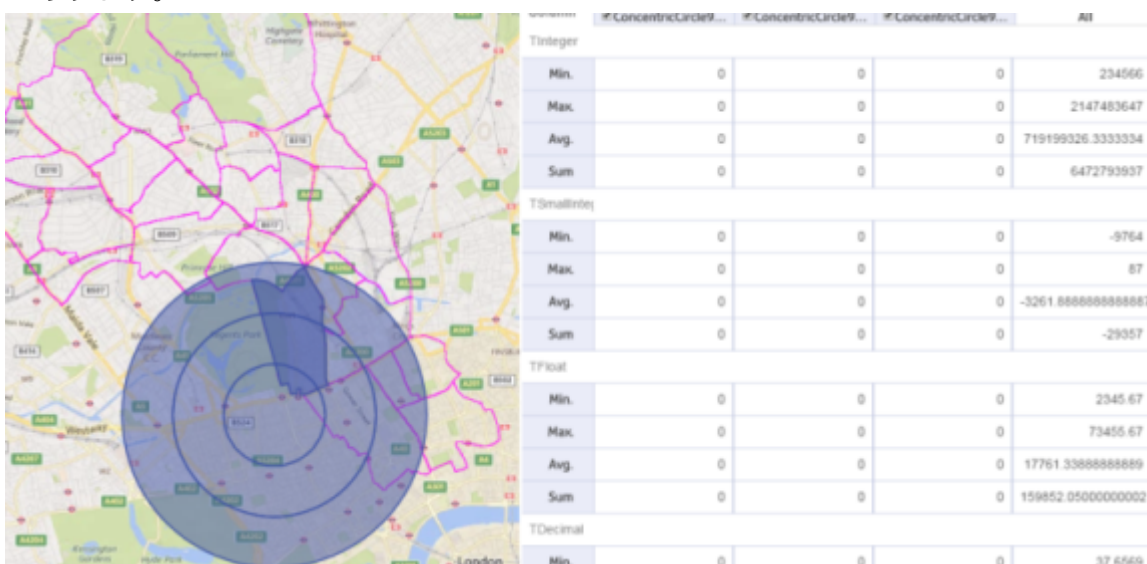


[集計] ダイアログ ボックスを閉じます。すべての集計データは失われます。

注：集計データは、テキスト注釈に対してはサポートされていません。

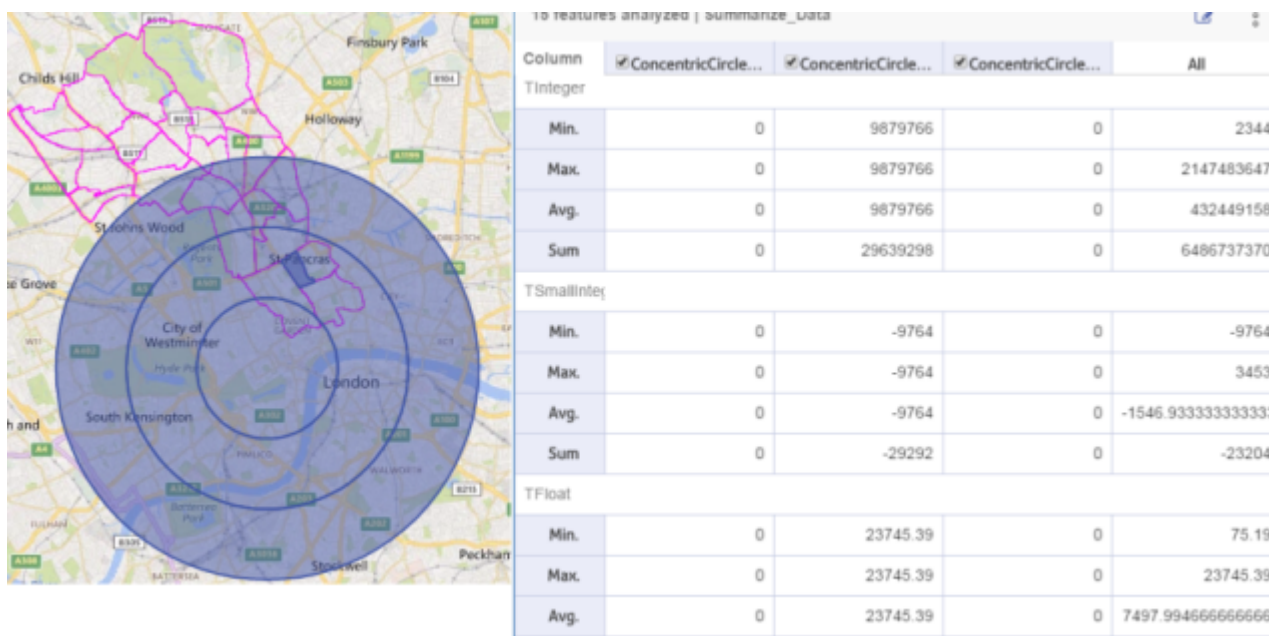
例 1 -

「完全に含まれる」操作では、すべて列の値が個々の「注釈」のジオメトリと異なる可能性があります。



上記の場合は、「同心円」注釈が描画され、ハイライトされるフィーチャはビジネス マップです。このフィーチャは各同心円リングと交差しますが、これらのリングはいずれも「完全に含まれる」条件を満たしません。このような種類のデータに対して「完全に含まれる」操作が実行されると、個々のリング データは 0 になりますが、「すべて」列はゼロ以外の値になる可能性があります。このような動作になる理由は、個々のリングには「完全に含まれる」フィーチャはないものの、マージされたジオメトリには多くのフィーチャがあるかもしれないためです。


例 2 -



この場合、ハイライトされた「フィーチャ」は同心円の2番目のリング内にありますが、注釈の1番目と3番目のリング内にはフィーチャはありません。そのため、このデータに対して「完全に含まれる」操作が実行されると、「すべて」列のデータは、2番目の同心円リングの0でないデータのみと異なる可能性があります。これは上記の理由のためです。ただし、中央のリング内に完全に含まれるジオメトリが1つだけがありますが、これらのリングをマーキングしたジオメトリには、さらに多くのフィーチャがある場合があります。

注釈のスタイル設定

色、サイズ、パターンの編集など、選択した注釈にさまざまなスタイルを適用できます。注釈のスタイルを設定するには、次の手順に従います。

1. 右側のメニュー  をクリックまたはタッチして **[マップの凡例]** パネルを開きます。
2. **[マップの凡例]** で、スタイルを設定する注釈をクリックまたはタッチします。 **[スタイル]** タブが **[プロパティ]** タブの横に表示されます。
3. **[注釈のスタイル設定]** タブが選択されていない場合は、クリックまたはタッチします。注釈にスタイルを設定するための編集プロパティが表示されます。

注釈	スタイル	説明
ポイント		ポイント注釈のプロパティとスタイルを表示します。
	アイコン	スタイルを、ドロップダウン リストから選択します。
	サイズ	ポイント注釈のサイズを選択します。1 ~ 64px で選択できます。
	色	クリックまたはタッチするとカラー パレットが開き、注釈の色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。
ポリゴン		ポリゴン注釈のプロパティとスタイルを表示します。
	塗りつぶしのパターン	注釈の塗りつぶしパターンを選択します。塗りつぶしなし、ソリッド パターン、グラフィック パターンから選択できます。
	塗りつぶしの色	クリックまたはタッチするとカラー パレットが開き、注釈の塗りつぶしの色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。
	枠線のスタイル	枠線のスタイルを、ドロップダウン リストから選択します。点線、実線、破線から選択できます。デフォルトでは、注釈は実線で表示されます。
	枠線色	クリックまたはタッチするとカラー パレットが開き、枠線の色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。
	枠線の太さ	枠線のサイズを変更します。1 ~ 7px で選択できます。
円		円注釈のプロパティとスタイルを表示します。
	塗りつぶしのパターン	注釈の塗りつぶしパターンを選択します。塗りつぶしなし、ソリッド パターン、グラフィック パターンから選択できます。
	塗りつぶしの色	クリックまたはタッチするとカラー パレットが開き、注釈の塗りつぶしの色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。
	枠線のスタイル	枠線のスタイルを、ドロップダウン リストから選択します。点線、実線、破線から選択できます。デフォルトでは、注釈は実線で表示されます。
	枠線色	クリックまたはタッチするとカラー パレットが開き、枠線の色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。

注釈	スタイル	説明
	枠線の太さ	枠線のサイズを変更します。1 ~ 7px で選択できます。
ライン		ライン注釈のプロパティとスタイルを表示します。
	ラインの色	クリックするとカラーパレットが開き、ライン注釈の色が選択できます。
	ラインスタイル	ラインスタイルを、ドロップダウンリストから選択します。点線、実線、破線から選択できます。デフォルトでは、注釈は実線で表示されます。
	ライン幅	ライン注釈のサイズを変更します。1pt ~ 7pt で選択できます。
長方形		長方形注釈のプロパティとスタイルを表示します。
	塗りつぶしのパターン	注釈の塗りつぶしパターンを選択します。塗りつぶしなし、ソリッドパターン、グラフィックパターンから選択できます。
	塗りつぶしの色	クリックまたはタッチするとカラーパレットが開き、注釈の塗りつぶしの色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。
	枠線のスタイル	枠線のスタイルを、ドロップダウンリストから選択します。点線、実線、破線から選択できます。デフォルトでは、注釈は実線で表示されます。
	枠線色	クリックまたはタッチするとカラーパレットが開き、枠線の色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。
	枠線の太さ	枠線のサイズを変更します。1 ~ 7px で選択できます。
テキスト		テキスト注釈のプロパティとスタイルを表示します。
	スタイル	テキスト注釈用の新しいフォントを、ドロップダウンリストから選択します。
	サイズ	テキスト注釈のサイズを変更します。
	色	クリックまたはタッチするとカラーパレットが開き、テキスト注釈の色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。
	蛍光色	蛍光色の色を選択します。黒と白から選択できます。

注釈	スタイル	説明
	太字	選択すると、テキストに太字スタイルを適用します。
	斜体	選択すると、テキストに斜体スタイルを適用します。
同心リング	同心リング注釈のプロパティとスタイルを表示します。	
	リング 1	リング 1、リング 2、リング 3 などのリング番号を表示します。
	塗りつぶしの色	クリックまたはタッチするとカラーパレットが開き、注釈の塗りつぶしの色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。
	塗りつぶしのパターン	注釈の塗りつぶしパターンを選択します。塗りつぶしなし、ソリッドパターン、グラフィックパターンから選択できます。
楕円	楕円注釈のプロパティとスタイルを表示します。	
	塗りつぶしのパターン	注釈の塗りつぶしパターンを選択します。塗りつぶしなし、ソリッドパターン、グラフィックパターンから選択できます。
	塗りつぶしの色	クリックまたはタッチするとカラーパレットが開き、注釈の塗りつぶしの色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。
	枠線のスタイル	枠線のスタイルを、ドロップダウンリストから選択します。点線、実線、破線から選択できます。デフォルトでは、注釈は実線で表示されます。
	枠線色	クリックまたはタッチするとカラーパレットが開き、枠線の色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。
	枠線の太さ	枠線のサイズを変更します。1 ~ 7px で選択できます。
セクター	セクター注釈のプロパティとスタイルを表示します。	
	塗りつぶしのパターン	注釈の塗りつぶしパターンを選択します。塗りつぶしなし、ソリッドパターン、グラフィックパターンから選択できます。
	塗りつぶしの色	クリックまたはタッチするとカラーパレットが開き、注釈の塗りつぶしの色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。

注釈	スタイル	説明
	枠線のスタイル	枠線のスタイルを、ドロップダウン リストから選択します。点線、実線、破線から選択できます。デフォルトでは、注釈は実線で表示されます。
	枠線色	クリックまたはタッチするとカラー パレットが開き、枠線の色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。
	枠線の太さ	枠線のサイズを変更します。1 ~ 7px で選択できます。
走行時間ポリゴン		走行時間ポリゴンのプロパティとスタイルを表示します。
	走行時間ポリゴン	ポリゴン 1、ポリゴン 2、ポリゴン 3 などのポリゴンを表示します。
	塗りつぶしの色	クリックまたはタッチするとカラー パレットが開き、注釈の塗りつぶしの色が選択できます。 [選択] ボタンをクリックまたはタップして新しい色を適用します。
	塗りつぶしのパターン	注釈の塗りつぶしパターンを選択します。塗りつぶしなし、ソリッド パターン、グラフィック パターンから選択できます。

4. ポイント、円、テキスト、ポリゴンなどの注釈を再度クリックまたはタッチすると、注釈のスタイル ダイアログ ボックスが閉じます。

11 - 距離および面積の測定

注：測定機能は、管理者が **Spatial Manager** で行った設定に基づいて使用可能になります。ユーザによっては、これらのツールが有効にされていない場合があります。

このトピックの内容:



このセクションの構成

距離の測定	107
面積の測定	107

距離の測定

注：測定機能は、管理者が Spatial Manager で行った設定に基づいて使用可能になります。ユーザによっては、これらのツールが有効にされていない場合があります。

マップ上で距離を測定するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[測定ツール]** リストで、**[線を測定]**  を選択します。これにより、描画モードに入ります。
3. マップ上で最初のポイントにする場所を 1 回クリックします。
4. マウスを移動し、2 番目のポイントでもう一度クリックします。
5. 追加したいポイント数に応じて上記の手順を繰り返します。
6. 最後のポイントを追加する際は、マウスをダブルクリックします。測定した距離は、マップ内の測定ラインの横に表示されます。



注：距離は、メートル、フィート、ヤード、キロメートル、マイルで測定できます。

7. **[クリア]** ボタンをクリックまたはタッチすると、測定エリアが削除されます。

面積の測定

注：測定機能は、管理者が Spatial Manager で行った設定に基づいて使用可能になります。ユーザによっては、これらのツールが有効にされていない場合があります。

マップ上で面積を測定するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックまたはタッチして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[測定ツール]** リストで、**[面積を測定]**  を選択します。これにより、描画モードに入ります。

3. マップ上で最初のポイントにする場所を 1 回クリックします。
4. マウスを移動し、2 番目のポイントでもう一度クリックします。
5. 追加したいポイント数に応じて上記の手順を繰り返します。
6. 最後のポイントを追加する際は、マウスをダブルクリックします。測定した距離は、マップ内の測定エリアの横に表示されます。
7. 測定の単位は、ドロップダウンリストから変更できます。



注：面積は、メートル、フィート、ヤード、キロメートル、マイル、エーカー、ヘクタールで測定できます。

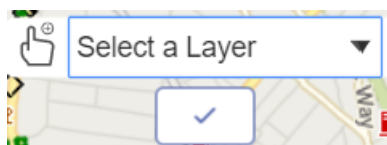
8. **[クリア]** ボタンをクリックまたはタッチすると、測定エリアが削除されます。

12 - フィーチャの複数選択


注：フィーチャの複数選択は、[マップの凡例] パネルの [オーバーフロー] メニューから使用することもできます。詳細については、「[\[マップの凡例\] パネル](#)」を参照してください。


マップで複数のフィーチャを選択するには、次の手順に従います。

1. マップの右上隅の **[追加]**  アイコンをクリックして **[追加]** パネルを開きます。
2. **[フィーチャを複数選択]**  アイコンをクリックして、マップ上で複数のレイヤを選択します。フィーチャの複数選択が有効になり、使用可能なレイヤの一覧が以下の図のようにマップに表示されます。



3. **[レイヤを選択]** ドロップダウンリストをクリックして、異なるレイヤを選択します。通常、[マップの凡例] パネルで有効になっているレイヤがマップに表示されます。
4. マップをクリックしてフィーチャを選択します。瞬時にフィーチャの詳細が左側のパネルに表示されます。

注：モバイル デバイスでは、フィーチャの複数選択がライブ更新に対応していません。マップでフィーチャを選択し、 マークをクリックすると、結果が左側のパネルに表示されます。

5.  マークをクリックして、フィーチャの複数選択を完了します。

このセクションの構成

13 - マップの印刷

Spectrum Spatial Analyst で、注釈付きのマップを印刷できます。また、マップを印刷する前にプレビュー表示することもできます。

以下のトピックでは、マップの印刷について説明します。



このセクションの構成

印刷プレビュー

112

印刷プレビュー

マップを印刷する前にプレビューするには、次の手順に従います。

1. 右側のメニュー  をクリックまたはタッチして **[オプション]** パネルを開きます。
2. **[印刷プレビュー]**  ボタンをクリックまたはタッチします。

印刷プレビュー モードが表示され、上部に **[印刷設定]** バーが表示されます。印刷プレビュー モードでマップの移動とズームを行うこともできます。

注：Google ベース マップでは移動とズームを使用できません。

注：**[印刷設定]** バーに拡大縮小印刷オプションが表示される場合とされない場合があります。このオプションは、Spectrum Spatial Analyst 管理者が適用する設定に基づいて使用可能になります。

3. **[テンプレート]** ドロップ ダウン リストからテンプレートを選択します。選択できるデフォルトのテンプレートは次のとおりです。
 - 縦方向
 - 横方向
 - 縦方向マップのみ
 - 横方向マップのみ

注：Spectrum Spatial Analyst 管理者が適用した設定によっては、もっと多くの印刷デザイナー テンプレートが表示されることがあります。

4. **[ズーム]** ドロップダウン リストをクリックまたはタップして、ズーム レベルを選択します。画面上でタップとピンチ イン/ピンチ アウトの操作を行い、画面を拡大または縮小することができます。

注：最大ズーム レベルは管理者が設定できます。

5. **[縮尺]** ドロップダウン リストをクリックまたはタップして、印刷時の縮尺を選択します。**[縮尺]** ドロップダウンには、現在の縮尺 (現在表示中のマップが印刷テンプレート内に収まった状態) と他のいくつかの縮尺が表示されます。任意の縮尺を入力することもできます。印刷が適切な解像度で表示されるように、使用可能な縮尺の範囲は現在のズーム レベルに基づいて選択されます。必要な縮尺が範囲内にない場合は、拡大縮小してから印刷してください。

6. **[タイトル]** テキスト ボックスにマップのタイトルを入力します。
7. マップを PDF ドキュメントとして保存するには、**[PDF にエクスポート]** をクリックまたはタッチします。

注: 左側のパネルに表示されたコールアウト情報は、マップとともに、PDF の次のページに出力されます。

8. マップ モードに戻るには、**[キャンセル]** をクリックまたはタッチします。

注: このリリースでは、IE11/Edge に対し、SVG 形式ではなく、PNG 形式のみがサポートされます。この方式による唯一の制約は、IE の印刷用凡例パネルに注釈のスタイルの凡例が表示されないことです。メインページの凡例パネルには影響ありません。メインページの凡例パネルは、SVG イメージの場合と同様に機能します。この修正の影響を受けるのは、IE11/Edge の印刷機能の凡例パネルのみです。

注: 印刷用 PDF では著作権情報は左揃えで表示され、Bing ロゴは実際のマップに表示されるオリジナル ロゴ アイコンの代わりに "bing" という文字で表示されます。



3001 Summer Street
Stamford CT 06926-0700
USA

www.pitneybowes.com